

関西館は、20年前の平成14（2002）年10月に開館しました。また、平成21（2009）年から定期開催を始めた関西館の資料展示は今回で30回を数えます。

二つの節目を迎えるにあたり、これまでの資料展示で出展した約2500点から、見どころとされた資料やアジア言語資料、博士論文などの特色ある資料を中心に選抜した約180点を展示します。

また、関連展示として、平成7～8（1995～1996）年に実施した関西館建築設計競技の応募作品493点の中から、最優秀作品・優秀作品の一部を展示します。

※第25回までは「小展示」と称していましたが、便宜上呼称は「資料展示」としています。

目次

第1回「ダーウィン生誕200年、『種の起源』刊行150年」	5
第2回「日食を追うひとびとー7月22日皆既日食にちなんで」	6
第3回「眺めてみよう、色々な国・時代の百科事典」	7
第4回「冬季オリンピック」	8
第5回「往年のベストセラー 日本人は何を、どう読んできたか」	10
第6回「平城遷都1300年関連展示 シルクロードをたどる人びと」	11
第7回「テレビジョンーアナログからデジタルへー」	13
第8回「書物にみる辛亥革命」	14
第9回「日本人と英語」	15
第10回「鉄道旅あんない」	17
第11回「日本の詩歌」	19
第12回「時空をかける三国志ー日本・中国における『三国志演義』の形成と展開」	21
第13回「花ひらく少女歌劇の世界」	23
第14回「東南アジア世界遺産の旅」	25
第15回「日本酒の近代化と洋酒の国産化ーニッポンの酒造り」	27
第16回「宇宙に夢中ー古代の宇宙観から「はやぶさ」までー」	29

第 17 回「明日のレシピはフルコースー作りたい味を見つけようー」	30
第 18 回「古今東西いきもの絵巻ーいる、いない、もういないー」	32
第 19 回「おそれと祈りーまじないのかたちー」	33
第 20 回「ロボット進化中！ー神話・からくり人形から最新ロボットまでー」	35
第 21 回「梅尽くしー和歌から絵画、食卓までー」	36
第 22 回「明かりをつくる、光をいかすー照明から建築・アートまでー」	38
第 23 回「犬も歩めば本になるー歴史から研究・物語までー」	39
第 24 回「百花繚乱！ガーデニングの世界」	41
第 25 回「人体ワンダーランド～からだをめぐる冒険いまむかし～」	44
第 26 回「お！べんとうの本」	46
第 27 回「図書館で駆け抜ける！クルマの世界」	48
第 28 回「ニッポン茶・チャ・CHA」	50
第 29 回「結構毛だらけネコ本だらけ」	52

凡例

- ・展示の順番にしたがって資料の情報を掲載しています。
- ・書誌情報は「タイトル / 編著者名等, 出版者, 出版年」の順に記載しています。
【 】内は資料の請求記号です。
- ・★印は、デジタル化済の資料の原本であることを示しています。デジタル化済資料は国立国会図書館デジタルコレクションでご覧いただけます。公開範囲は資料により異なりますが、館内の端末からはすべて閲覧可能です。

<デジタル化済の資料を閲覧するには>

- ・国立国会図書館オンライン（<https://ndlonline.ndl.go.jp/>）で、ご覧になりたい資料の請求記号やタイトル等により資料検索を行い、検索結果の画面で「デジタル」のボタンをクリックしてください。
- ・または、国立国会図書館デジタルコレクション（<https://dl.ndl.go.jp/>）で、ご覧になりたい資料の請求記号やタイトル等により資料検索を行ってください。
- ・各資料の公開範囲は、書誌事項の後ろに付した以下の表示をご確認ください。

インターネット公開

インターネット上で閲覧が可能な資料です。ご自身の端末（スマートフォン、タブレット、パソコン）等で閲覧できます。

館内／図書館・個人送信

国立国会図書館の館内の端末、および図書館向けデジタル化資料送信サービス¹に参加している図書館の端末で閲覧が可能な資料です。個人向けデジタル化資料送信サービス²をご利用の方は、ご自身の端末（スマートフォン、タブレット、パソコン）等でも閲覧できます。

国立国会図書館内限定

国立国会図書館の館内の端末でのみ閲覧が可能な資料です。

¹ 詳細については当館ホームページをご参照ください。

https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/index.html

² 詳細については当館ホームページをご参照ください。

https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html

**第1回「ダーウィン生誕200年、『種の起源』刊行150年」
(平成21年5月21日～6月16日、出展数15点)**

第1回の資料展示は、平成21(2009)年がダーウィンの生誕200周年、『種の起源』の刊行から150周年であったことにちなみ、ダーウィンに関連する資料を紹介しました。初期の展示では、出展数は15点～30点程度と、現在に比べれば少なめでした。



**★1. 生物始源：一名種源論 / チャーレス・ダーキン 著, 立花銚三郎 訳.
経済雑誌社, 1896【467.5-cD22s3-T】** インターネット公開

『種の起源』の初めての日本語訳。元となったのは、ちょうど150年前の明治5(1872)年1月に刊行された『種の起源』第6版。展示箇所は、『種の起源』に含まれる唯一の図。一番下にある「伊」～「留」(英語の原著ではA～L)の11の種が時間の経過とともに様々な変種を生み出し、その過程で他の種が滅ぼされたり、滅ぼされずに存続する種があったりする、ということを示している。訳者の立花銚三郎(たちばな せんざぶろう)は明治時代の哲学者・教育学者で、当資料が刊行された明治29(1896)年に学習院の教授に就任した。夏目漱石と帝国大学時代から親交があったという。

2. On the origin of species : by means of natural selection, or, the preservation of favored races in the struggle for life. / By Charles Darwin New ed., from the 6th English ed. with additions and corrections /Appleton, 1883【575-D228o】

【資料番号 No.1】の底本である第6版の『種の起源』で、発行されたのはダーウィンの没した明治15(1882)年の翌年である。第6版はそれまでの版よりも小ぶりとなり、本文の文字が小さくなったりページ数が抑えられたりしたことで価格が安価になった。また印刷方法も活版印刷から鉛版印刷に変わっている。これらの理由により、何回かにわたり増刷が行われた。内容面でも第7章が追加されているが、これ以降改訂版が刊行されなかったため、最後の加筆修正となった。

3. Observations on the parallel roads of Glen Roy, and of other parts of Lochaber in Scotland, with an attempt to prove that they are of marine origin / Charles Darwin (掲載誌 Philosophical Transactions of the Royal Society of London (129).[Royal Society], 1839 pp.39-81【Z53-A104】)

当館が所蔵する、ダーウィンの著した雑誌論文の中で最も古いもの。スコットランド北西部には、Glen Roy (ロイ溪谷) を始め、山肌にいくつかの段差が見られる。これらは遠くから眺めると、平行に道路が走るように見えるため、「Parallel road」と呼ばれている。ダーウィンは現地調査を行い、ビーグル号での調査による知見を基に、過去の海岸線が隆起してできたものと考えた。しかし天保 11(1840)年、スイスの地質学者のレイ・アガシーにより氷河由来のものだと反論を受け、後にダーウィンも自説の誤りを認めた。

**第 2 回「日食を追うひとびとー7月 22 日皆既日食にちなんで」
(平成 21 年 7 月 16 日～8 月 18 日、出展数 15 点)**

資料展示は、開始後しばらくは現在のように各年度 2 回という頻度に固定化しておらず、第 2 回は第 1 回終了から 1 か月後に行いました。この年はガリレオが望遠鏡で夜空を観測してから 400 年になることを記念し「世界天文年」に指定されていました。また日本で 46 年ぶりに皆既日食が見られた年でもあります。



4. The Total Eclipse of Last August in Japan / David P. Todd (掲載誌 Nature : The international journal of science / Springer Nature Asia-Pacific.36(939)1887 pp.609-612【Z53-A28】)

明治 20 (1887) 年 8 月 19 日に新潟県から茨城県にかけての一带で観測された皆既日食について、アメリカの天文学者のデイヴィッド・ベック・トッドが著した雑誌記事。彼は白河小峰城 (現在の福島県白河市) で観測を行ったが、当日は厚い雲に覆われ、条件は良くなかった。だが新潟県三条市で観測を行っていた文部省編輯局長の伊沢修二からスケッチを貰うことができた。展示箇所は、そのスケッチの掲載部分。この日食は大きな関心を集め、上野から白河までの鉄道では、運賃が半額になり臨時列車が運行された。また政府も官報 (同年 8 月 5 日付) に観測の心得を掲載したり、スケッチ用の紙を配布したりするなど、関心の喚起に努めた。現在までで本州で見られた最後の皆既日食でもある。

5. 平成 11 年 8 月 11 日の皆既日食による太陽コロナと地球磁気圏の観測 / 桜井,隆;一本,潔,国立天文台.1999-2000 【Y151-H11691140】

関西館の特徴的な所蔵資料の一つに、文部科学省科学研究費補助金（科研費）による研究成果報告書がある。展示資料は、科研費補助金報告書のうち、関西館資料展示で最初に出展されたもの。平成 11（1999）年にヨーロッパから中東にかけて見られた皆既日食の際、国立天文台・京都大学・九州大学によって実施された観測について記述されている。観測では、コロナが数百万度もの高温になる理由の解明や、コロナの温度及び速度場の構造、日食による地上の磁場の変化の様子を探ることが目的とされた。表紙や中身の太陽の写真の鮮やかさには目を引かれる。

6. Science window = サイエンスウィンドウ：あったかがく / 科学技術振興機構科学技術理解増進部,2(10) (通号 22) 2009.1 【Z74-F295】

科学教育について扱った教員向けの雑誌。世界天文年の特集記事が主体だが、平成 21（2009）年 7 月 22 日の皆既日食についての解説も掲載されている。ガリレオのスケッチと現在の観測による見え方の違いを、月・太陽・木星の衛星・オリオン星雲の比較によって示した写真や、世界天文年の記念イベントの紹介などもある。なお同年の 12 月には 7 月の皆既日食について大きく扱った増刊号も刊行された。

第 3 回「眺めてみよう、色々な国・時代の百科事典」

（平成 21 年 10 月 2 日～11 月 17 日、出展数 15 点）

関西館の大半の資料は書庫にあります。総合閲覧室で自由に手に取ることができる資料も少なくありません。第 3 回のテーマである百科事典は、比較的総合閲覧室にある比率が高い資料です。展示では、関西館の強みでもあるアジア資料のアピールとして、アジア諸国の百科事典も出展しました。



★ 7. 古事類苑 歳時部 8 / 神宮司庁古事類苑出版事務所 編. 神宮司庁, 明 29-大 3 【224-169】

インターネット公開

明治 12（1879）年に文部省により編纂が開始された百科事典。明治 28（1895）年に神宮司庁に引き継がれ、刊行は明治 29（1896）年から大正 3（1914）年に及んだ。全 1000 巻、和装本では約 351 冊に及び、天文・宗教など 30 の部門に分けられている。なお、洋装本もあり、こちらは関西館の閲覧室内で手に取って見ることができる（請求記号【UR1-G8】）。各見出し語の説明には、古代から幕末にかけての

様々な文献から、必要な箇所を原文のまま引用している。今回は、年中行事を扱った歳時部の中の、年末に行われる歳の市の様子を描いた挿絵を展示する。

8. 和漢三才図会上 / 寺島良安 編, 和漢三才図会刊行委員会 編. 東京美術, 1995.7 【UR1-G12】

9. 和漢三才図会下 / 寺島良安 編, 和漢三才図会刊行委員会 編. 東京美術, 1995.7 【UR1-G12】

正徳2(1712)年頃に大坂の医師の寺島良安により編纂された百科事典。「三才」とは天・地・人を指し、転じて万物も指す。明の学者の王圻(おう き)が編纂した『三才図会』がモデル。全体で105巻81冊からなり、天・地・人の三部、96の小分類で構成される。見出し語の多くには図がついている。各項目の説明では、最初に先行する書物の記述を引用し、その後に良安自身の説を、行頭に△マークを付け一字下げて記している。

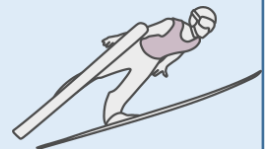
10. The Encyclopaedia of Islam New ed. / prepared by a number of leading orientalists ; edited by an editorial committee consisting of H.A.R. Gibb [and others] v.1 / Brill, 1960-[i.e. 1954]- 【HR32-B12】

イスラム世界の地理や歴史、文化について幅広く収録した百科事典。『The Encyclopaedia of Islam』は初版・第2版・第3版があるが、展示資料は昭和29(1954)年から平成16(2004)年にかけて編纂された第2版の第1巻。第2版は全13巻からなり、1~11が事典、12は補遺、13は索引。見出し語はアルファベット順で、記述も英語で書かれている。地図の折り込みが目立ち、第1巻ではアラビア半島やアフガニスタン、バグダッドの地図がある。平成19(2007)年からは第3版の刊行が継続中である。なお展示資料のオンライン版は、館内の端末の「電子情報を利用する」の中に「Encyclopaedia of Islam Online」として収録している。

第4回「冬季オリンピック」

(平成22年1月21日~2月27日、出展数17点)

第4回の資料展示は、会期中にバンクーバーオリンピックが開催されたことを受け、過去に日本で開催された冬季オリンピックについての資料や、出場した選手に関する資料などを展示しました。



★11. 第五回冬季オリンピック札幌大会：昭和 15 年 一般規則及びプログラム / 第五回冬季オリンピック札幌大会実行委員会, [昭和 13] 【特 240-612】

インターネット公開

昭和 15 (1940) 年に予定されていた札幌冬季五輪の際、大会実行委員会により編集された、五輪の規則や競技日程などの概要をまとめた冊子。展示箇所は、円山公園の開閉会式会場や大倉山のスキージャンプ会場の鳥瞰図である。展示箇所以外には、中島公園のスケート競技場や神社山のボブスレーコースの図なども掲載されている。札幌冬季五輪は、昭和 12 (1937) 年 6 月に、準備が順調でない場合はノルウェーに開催を譲るという条件付きで内定し、翌年 3 月に正式に開催が決定したものの、日中戦争の激化によりわずかに 4 か月後の同年 7 月に返上に追い込まれた。

12. 1998 長野オリンピックニュース / 長野オリンピック冬季競技大会組織委員会事務局 [編]. 長野オリンピック冬季競技大会組織委員会事務局, 1992-1998 【Z71-C173】

平成 4 (1992) 年 5 月から平成 10 (1998) 年 1 月にかけて、長野冬季五輪組織委員会が月 2 回発行した、大会に向けての準備状況を伝えるニュースレター。全 110 号を合冊して 1 冊にまとめている。建設中の競技会場の写真やチケットの価格表といった、準備段階ならではの情報が収録されている。

13. わが人生のシュプール / 猪谷千春 著. ベースボール・マガジン社, 1994.2 【FS41-E459】

昭和 31 (1956) 年のコルティナダンペッツォ冬季五輪で、アルペン男子回転の銀メダルを獲得し、日本初の冬季五輪でのメダリストとなった猪谷千春 (いがや ちはる) 氏の自伝。「シュプール」とはスキーで滑った時に雪の上に見える跡を指す。幼少期から昭和 27 (1952) 年・昭和 31 (1956) 年の冬季五輪出場までの記述の分量が多い。特にアメリカのダートマス大学への留学や、美津濃運動具用品 (現在のミズノ) のマネージャーの田島一男氏及び保険会社の AIG 創業者のコーネリアス・バンダー・スター氏との関係についての部分などが見どころ。

第5回「往年のベストセラー 日本人は何を、どう読んできたか」 (平成22年6月17日～7月20日、出展数24点)

平成22(2010)年は、活字離れ・読書離れを受け、読書への国民の意識を高めることを目的として指定された「国民読書年」でした。そのため、第5回の資料展示では、明治から現代までのベストセラーや、読書文化に関する資料などを展示しました。



★14. 家庭に於ける実際的看護の秘訣 / 築田多吉 著.築田つね, 大正 14 【60-779】

インターネット公開

海軍の看護特務大尉として傷病兵や家族の手当にあたった築田多吉(つくだ たきち)が執筆した、様々な病気の治療法や家庭での看護の方法、民間療法などを記した本。当初は海軍内部での予約分1万5千冊のみが刊行されたが、次第に版を重ね、累計の発行部数は1000万部を超える。現在も刊行中である。展示箇所は、「第二章 家庭看護の要領」のうち、家庭での看護の際に患者の寝室をどう整えるかについて述べた部分。同じ章では患者の衣類や部屋の掃除などについても説明されている。

15. توتوتشن : الشباك عند الصغيرة الفتاة / تيتسوكو تأليف دار. كويانو أكيرا, السمني علي حسن علي ترجمة, كوروياناغي الشروق, [1988] 【Y775-K29】

女優・司会者の黒柳徹子氏による小学生時代を中心とした自伝『窓ぎわのトットちゃん』のアラビア語版。同書は様々な言語に翻訳されているが、第5回ではそのうち中国語(台湾)・インドネシア語・アラビア語版を展示した。アラビア語版のタイトルは、直訳すると「トットちゃん：窓際の少女」。昭和61(1986)年に黒柳氏の友人のテレビディレクターがカイロを訪問したことが出版のきっかけとなり、当時カイロ大学日本語学科講師だった古谷野晃(こやの あきら)氏や、エジプト出身で東京外国語大学アラビア語科の客員教授を務めたアリー・ハサン・エル＝サムニー氏により翻訳された。

16. 近代読者の成立(有精堂選書)/ 前田愛 著.有精堂, 1973 【KG311-90】

国文学者・文芸評論家の前田愛による、天保～戦後にかけての出版業の動向や読書の形態、読者層の変遷を扱った研究書。昭和30年代半ばから40年代後半にかけて投稿した論文8編及び書下ろし論文1編を収録。「音読から黙読へ」では、江戸時代から明治時代にかけての、読み手が声に出して読み、それを聞き手に伝えるとい

う読書の形態が、一人で黙読するものへと次第に変化する様子を述べている。また「明治立身出世主義の系譜」では、『学問のすすめ』などの明治初期の立身出世を促す著作がどのように読者に影響したかを論じている。

17. インターネット図書館青空文庫 / 野口英司 編著. はる書房, 2005.11 【YU9-H371】

青空文庫とは、著作権の消滅した作品や著者の許諾のある作品について、インターネット上で閲覧できるようにした電子図書館である。展示資料は、設立者の一人の野口英司氏が、平成9(1997)年の設立からの8年間の経緯や、「作業員」と呼ばれる入力や校正・ファイル作成を実施するボランティアを紹介している。当館が運営していた近代デジタルライブラリー(平成28(2006)年に国立国会図書館デジタルコレクションに統合)について述べた部分もある。

第6回「平城遷都1300年関連展示 シルク ロードをたどる人びと」

(平成22年9月16日～10月19日、出展数
28点)



和銅3(710)年の平城京遷都から1300年に当たる平成22(2010)年は、奈良県を中心として「平城遷都1300年祭」が行われました。第6回の資料展示では、天平文化に大きな影響を与え、その後も長らくユーラシア大陸の交流を支えたシルクロードについての資料を展示しました。

★18. 絹の道 / スヴェン・ヘディン 著, 橋田憲輝 訳. 高山書院, 昭和19 【292.09-H51ウ】

館内/図書館・個人送信

スウェーデンの探検家のスヴェン・ヘディンが昭和8(1933)年10月から昭和10(1935)年2月にかけて行った中央アジア探検記の日本語版。この探検は、新疆への自動車道路建設を目的として、中華民国の国民政府の委嘱により組織された「西北科学考察団」により行われたもの。ヘディン以外にも、地質や考古、気象、人類学や考古学などの多分野の専門家が参加した。巻頭と巻末には、探検でたどったルートを示した地図がある。なお「シルクロード」という語を初めて用いたのは、ヘディンの師であったドイツの地理学者のフェルディナント・フォン・リヒトホーフエンであった。

19. 東京国立博物館図版目録 大谷探検隊将来品篇 / 東京国立博物館, 1971 【KB16-251】

浄土真宗本願寺派第 22 代法主の大谷光瑞は、明治 35 (1902) 年から大正 3 (1914) 年の間、中国西部に向け 3 回にわたって探検隊を派遣した。この探検隊が持ち帰った資料のうち、東京国立博物館が所蔵する 201 件について述べた目録。前半は探検隊及び資料の説明で、中盤以降に資料の写真が掲載されている。東京国立博物館は 1960 年代後半に資料を購入したが、それまでは十分に整理・研究されてこなかった。当資料ではその間に資料がたどった過程についても述べられている。

20. ドイツ・トゥルファン探検隊西域美術展 : Central Asian Art from the Museum of Indian Art, Berlin, SMPK / 東京国立博物館 [ほか]編.朝日新聞社, c1991 【K16-E326】

トゥルファン探検隊とは、明治 35 (1902) 年から大正 3 (1914) 年までの間にかけて、ドイツの考古学者のアルベルト・グリェンヴェーデルやアルベルト・フォン・ル・コックなどによって、中国西部の探検のため 4 回にわたって組織された探検隊。このとき持ち帰られた資料は、ベルリン国立インド美術館の収蔵品となった。そのうち壁画や塑像・刺繍など 150 点が、平成 3 (1991) 年に東京国立博物館・宮崎県総合博物館・京都国立美術館で開催された展覧会で展示された。展示資料はその時の図録である。

21. マルコ・ポーロ東方見聞録 : 全訳 : 『驚異の書』 fr.2810 写本 / マルコ・ポーロ [著], 月村辰雄, 久保田勝一 本文訳, フランソワ・アヴリル, マリー=テレーズ・グセ 解説, 小林典子, 駒田亜紀子, 黒岩三恵 訳. 岩波書店, 2002.3 【GE84-G6】

フランス国立図書館には、『東方見聞録』の中世フランス語版の写本が所蔵されている。フランスの宮廷で伝えられてきたもので、84 点に及ぶミニアチュール(細密画)が掲載されているのが特徴。展示資料はこの写本の全訳とミニアチュールの写真、写本の解説からなる。pp.147~pp.148 には、日本を指すと考えられる「サパング」についての記述がある。ちなみに『東方見聞録』は通称で、写本ごとにタイトルが違っており、展示資料のタイトルにある『驚異の書』はこの写本に付けられたもの。

第7回「テレビジョン－アナログからデジタルへ－」

(平成23年2月17日～3月15日、出展数28点)

平成23(2011)年7月24日の地上デジタル放送への移行を目前に控えた第7回資料展示では、テレビの開発者や放送技術、テレビと国民生活との関係など、テレビに関する資料を展示しました。



★22. テレビジョンの話 (朝日民衆講座；第17輯) / 朝日新聞社, 昭和5【特223-570】

国立国会図書館内限定

日本でテレビの開発が行われたのは大正末期～昭和初期に遡る。当時は早稲田大学と浜松高等工業学校(現在の静岡大学工学部)がしのぎを削っていた。展示資料は、前者所属の山本忠興(やまもと ただおき)・川原田政太郎両氏が昭和5(1930)年3月17日に朝日新聞社本社講堂で行った放映実験での講演と、後者所属の高柳健次郎・中島友正両氏が同年4月4日に、「放送開始満五年記念ラヂオ展覧会」の場で行った講演とを収録したもの。展示箇所は山本・川原田氏が開発したテレビの写真で、(A)は像を送る側で(B)は受ける側。

23. 20世紀放送史 上 / 日本放送協会 編. 日本放送出版協会, 2001.3【YU7-2428】

24. 20世紀放送史 下 / 日本放送協会 編. 日本放送出版協会, 2001.3【YU7-2428】

20世紀の放送の歴史を総合的に記録した資料。21世紀最初の年である平成13(2001)年に、これからの放送を展望する上での手掛かりを得る目的で刊行された。「放送史」というタイトルが示すとおり、モールスやベルによる無線通信の開発から扱い、ラジオ時代・テレビ時代・多メディア時代の三部で構成されている。民放の動向にも触れてはいるが、NHKが編集しているので、NHKの動向が中心に扱われている。

25. テレビ視聴の50年 / NHK放送文化研究所 編. 日本放送出版協会, 2003.11【UC215-H8】

テレビ放送の開始から50年を迎えた平成15(2003)年に、NHK放送文化研究所が、50年間の番組編成と視聴者の意識を分析し、テレビの新しい姿と視聴者動向をまとめた資料。50年間のテレビ番組の編成の変遷を扱った第1部と、視聴者の視聴行動や、視聴して何を受け止めているのかについて、視聴者への調査の結果を用いつつ、その移り変わりも含めてまとめた第2部とに分かれる。また、同年12月1

日の地上デジタル放送開始を受けて、テレビの将来についての展望もなされている。

26. 3D 立体映像がやってくる：テレビ・映画の 3D 普及はこうなる! / 石川憲二 著. オーム社, 2010.4 【DL475-J232】

第 7 回の展示が行われた平成 23 (2011) 年頃は、3D テレビの発売や 3D 映画の公開など、3D に対する注目が高まっていた時期であった。展示資料は「おそらく日本で初めての 3D 技術入門書」と銘打ち、3D 対応の機器の仕組みや各商品・業界の動向など、3D への関心の有無を問わず事前に知っておきたい情報を提供する、というコンセプトで解説している。著者は、4、5 年もすると 3D 対応のデジタルカメラやビデオカメラが店頭にあふれ、2D のみの製品は追いやられるのではと推測していた。

第 8 回「書物にみる辛亥革命」

(平成 23 年 5 月 19 日～6 月 14 日、出展数 33 点)

平成 23 (2011) 年は辛亥革命から 100 年に当たる年でもあります。革命に関係した人物の著作や、当時に発行された新聞などを展示しました。



27. 順天時報 / 順天時報社. (通号 2960)-(通号 3007) 1911.12-1912.02 【新-1026】

日本の民間外交団体である東亜同文会の中島真雄（なかじま まさお）らが、中国人の対日イメージ改善を目的とし、明治 34 (1901) 年に北京で創刊した中国語の新聞。展示箇所は、宣統帝の退位を伝える 1911 年 12 月 26 日（新暦の 1912 年 2 月 13 日）の記事。宣統帝の退位の詔書が収録されているほか、翌日からは元号の「宣統」表記が終わり「大中華辛亥年」という標記になることから、大きな節目であることがうかがわれる。

28. 『光緒宣統兩朝上諭檔』第 37 冊(宣統 3 年) / 中國第一歷史檔案館編. 廣西師範大學出版社, 1996.10 【GE295-C152】

「上諭」は皇帝の命令のこと。「檔（「档」とも）」は書類を保管する仕切りのある戸棚を意味し、転じて政府が発行する公文書も指す。「档」は「档案」とも呼ばれるが、このうち、明・清代のものを収集しているのが中国第一歴史档案馆である。展示資料は、同館が編纂した、光緒帝・宣統帝の治世を扱うシリーズの最終巻である。p.432

の文書番号 1507 は、宣統帝の退位の上諭であり、下段 2 行目には袁世凱に「臨時共和政府」を組織させるとある。

29. 1860-1930：英国藏中国历史照片 / 中国国家图书馆，大英图书馆编. 国家图书馆出版社，2008.10 【GE298-C233】

平成 20（2008）年に、中国国家図書館が英国図書館（大英図書館）の協力により、イギリス所蔵の近代中国関係の古写真の展覧会を開催した際の図録下巻。革命初期の漢口で撮影された清軍や革命軍の写真が収録されているが、その多くは撮影者が分かっていない。なお辛亥革命以外では、「第七部分」の中国西部の写真が見どころ。第 6 回の展示テーマであるシルクロードに関するものが掲載されている。

30. 宋教仁の日記 / 宋教仁 著，松本英紀 訳注. 同朋舎出版，1989.12 【GK344-E2】

清末に活躍した革命家である宋教仁（そう きょうじん）が記した日記『我之歴史』の日本語訳版。時期は明治 37（1904）年 10 月 30 日から同 40（1907）年 4 月 9 日までで、彼が日本に滞在していた頃に重なる。中国同盟会の結成や、同会の機関誌『民報』の編集にも携わるなど、辛亥革命の主要人物である。孫文と意見に相違があったことから、非革命的な人物とされ研究が進んでいなかった。そんな中でも著者の松本氏は、早くも 1970 年代から研究対象としていたという。

第 9 回 「日本人と英語」

（平成 23 年 8 月 18 日～9 月 20 日、出展数 36 点）

平成 23 年度から、全国の小学校で、英語を扱う「外国語活動」が必修となりました。これを受け第 9 回の資料展示は、日本の近現代における英語学習の歴史を振り返ることをテーマとしました。



★31. 万国史 / ペートル・パーレー（巴来）著，牧山耕平 訳. 文部省，明治 9.3 【特 20-110】

インターネット公開

世界各国の歴史や地理について述べた『Peter Parley's universal history』の日本語訳版。原本は、アメリカの文学者のサミュエル・グッドリッチが、同じくアメリカの文学者のナサニエル・ホーソンに執筆を依頼し天保 8（1837）年に出版。グッドリッチがホーソンの才能を評価したことが出版のきっかけとなった。「Peter

Parley」はグッドリッチのペンネームで、「巴来」はそれに漢字をあてたもの。明治前半の日本では、欧米の科学技術の導入はもちろん、その歴史的背景の学習への要求も強かった。"Peter Parley's universal history" は英語の本文が読みやすかったことで、全国の教育機関で幅広く読まれていた。展示箇所は日本の説明で、ペリーの来航も取り上げられている。

32. 英文鑑：資料と研究 / 渋川六蔵 [著], 杉本つとむ 編著. ひつじ書房, 1993.3 【KS35-E83】

日本初の本格的な英文法書の『英文鑑』の複製本。『英文鑑』は1822年にアメリカの文法学者リンドレー・マレーが刊行した『Grammer of the English Language』のオランダ語版『Engelsche Spraakkunst』を、幕府の天文方の渋川敬直（しぶかわひろなお、通称は六蔵）が翻訳し天保11（1840）年に刊行したもの。展示資料の底本である渋川敬直訳『英文鑑 1-4』（昭和3（1928）年）は、敬直の子孫の渋川民子が所蔵していた原稿がもとになっている。

33. 小学校英語活動における児童の不安に関する研究 / 松宮奈賀子 [著]. [松宮奈賀子], [2007]. 広島大学, 博士(教育学) 【UT51-2007-K184】

小学校の児童が英語活動に対してどのような不安を感じているのかを探り、その不安と英語嫌いとの関係や、英語への不安に対する対処法を研究した博士論文。教員だけでなく小学3～6年の児童にもアンケートを実施し、英語活動の楽しい所や嫌な所や緊張や不安を感じる点、外国人に話しかけたい意欲などについて調査している。その結果、3・4年生には英語への好意の芽を摘まないような配慮が求められ、一方で5・6年生には英語を嫌いにならないようにする支援が必要であると論じている。

34. 英語教科書名著選集 第29巻 / 大空社, 1993.12 【FC49-E42】

明治以降の英語の教科書を復刻したシリーズのうちの一つ。昭和24（1949）年に刊行された中学生向けの『Jack and Betty; English Step by Step』が収録されている。昭和25（1950）年度には全国の8割にも上る中学校が採用し、その後も昭和46（1971）年度まで22年間にわたり発行され続けた。内容は、タイトルにもなっているJones家のJackとSmith家のBettyを中心とした物語が軸で、難易度が上がるにつれて二人の家族など登場人物が増えていく。日本語は各学年部分末尾の和文英訳の"Exercises"と単語一覧の部分しかなく、中身はほとんど英語。

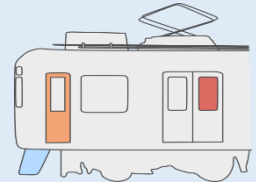
35. 英語教育大論争 / 平泉渉, 渡部昇一 [著]. 文芸春秋, 1975 【KS15-23】

雑誌『諸君!』上で交わされた、参議院議員の平泉渉と上智大学教授の渡部昇一(いづれも当時)による英語教育を巡る論争をまとめたもの。論争のきっかけは、平泉が自民党の政務調査会に提出した「外国語教育の現状と改革の方向」という資料だった。平泉は、大学受験のために高度な英語を教えていても負担が重く、現実の社会で英語が使えなくても不自由はしないので、一部の英語を学びたい層以外は中学1年生レベルの英語力で十分であると主張した。一方の渡部は、実用面で意味が無くとも英語を学ぶことで知力が向上するため、国民全員に広く教えないといけないと反論している。

第10回「鉄道旅あんない」

(平成23年11月17日～12月20日、出展数43点)

節目の第10回の資料展示は、第3回以来、久しぶりに時事的な側面があまり強くないテーマとしました。一方、関西館周辺の鉄道に関する資料を多く出展し、地域との関係は色濃い展示となりました。ちなみに今年は、明治5(1872)年の日本初の鉄道開業からちょうど150年に当たります。



★36 京阪電気鉄道線路案内 / 山本松三郎 編. 山本松三郎, 明43.3 【25-903】

インターネット公開

明治43(1910)年4月15日、現在の京阪本線のうち天満橋駅から五条駅(現・清水五条駅)までの区間が開業した。展示資料は開通の1か月前に発行されたもので、沿線の名所を天満橋から五条大橋まで、大阪側から順に紹介している。展示箇所は、開業当初に8か月間使われていた駅名(稻荷新道駅:現在の伏見稻荷駅)が見取れる。

37. 近畿日本鉄道100年のあゆみ / 近畿日本鉄道, 2010.12 【DH22-J937】

近畿日本鉄道株式会社が平成22(2010)年の創業100周年を記念し出版した社史。時系列的に章分けされており、巻頭には生駒トンネルや大阪上本町駅・大阪阿部野橋駅の開業当時と2010年時点を比較した写真が掲載されている。

**38. 한국철도차량 100 년사/ 철도차량기술검정단 한국철도차량 100 년사
편찬위원회 편찬. 철도차량기술검정단, 1999.8 【DK55-K5】**

タイトルは直訳すると「韓国鉄道車両 100 年史」。韓国では、明治 32 (1899) 年 9 月 18 日にソウルの漢江南岸の鷺梁津 (ノリャンジン) から仁川の間で初めての鉄道が開通した。展示資料はそこから 100 周年に当たる平成 11 (1999) 年に刊行された、鉄道車両の歴史の解説書。夕写真や図表を用いて、多種多様な車両が紹介されている。蒸気機関車や気動車、電車や地下鉄はもちろん、平成 5 (1993) 年の大田国際博覧会の際に使用されたりニアモーターカーや、当時計画段階だった高速鉄道についての記述もある。

**39. 全国铁路列车时刻表 / 铁道部运输局供稿. 中国铁道出版社, [19--]-
2016.6 【Z41-AC54】**

中国鉄道部 (現在は組織改編により消滅) が年 4 回刊行していた、中国の時刻表。この号では、平成 20 (2008) 年 8 月に北京南-天津で開通した中国初の高速鉄道が掲載されている。列車番号順の「车次目录」、路線別に分けた部分 (北京-広州及びその支線の「京広方向」など)、主要駅の時刻表の三つの部分からなる。高速鉄道の時刻表は先頭の p.1 に記載。関西館では、昭和 55 (1980) 年から平成 18 (2016) 年までの同時刻表を所蔵している。

40. ヨーロッパアルプス鉄道の旅 : 路線案内から旅の実用知識まで (講談社カルチャーブックス ;53) / 長真弓 写真・文. 講談社, 1992.6 【DK61-E7】

フランスやスイス、イタリアやオーストリアなどに点在するアルプスの鉄道について、路線ごとに案内したガイドブック。西から東の順に並べられており、沿線の案内や路線の地図、時刻表や乗車券について述べている。また、最急勾配や最高地点の標高、標高差といったデータも収録しており、山岳地帯の鉄道をまとめた本であることが実感できる。巻末には旅行のノウハウやモデルプランもあり、豊富に収録された美しい写真と相まって、旅情をかき立てられる。

第 11 回「日本の詩歌」

(平成 24 年 6 月 21 日～7 月 17 日、出展数 101 点)

関西館開館 10 周年を迎えた平成 24 (2012) 年は、与謝野晶子・荻原朔太郎の没後 70 年、石川啄木の没後 100 年にあたります。そうした節目を受け、第 11 回の資料展示では、俳句・和歌だけでなく、詩や漢詩なども含め、広く詩歌関連の資料を展示しました。またこの回以前は 30 点～40 点程度だった出展数は、この回以降 70 点～100 点前後に増加し、現在のような規模となります。



★41. 古訓古事記 : 3 巻 訂正 / 本居宣長 [訓]. 永田調兵衛, 1874 4 刻 【210.3-Ko698k2-M】

インターネット公開

第 11 回の資料展示が行われた平成 24 (2012) 年は、『古事記』の完成から 1300 年に当たる。展示箇所には、須佐之男命が詠んだ「夜久毛多都(やくもたつ)。伊豆毛夜幣賀岐(いづもやへがき)。都麻碁微爾(つまごみに)。夜幣賀岐都久流(やへがきつくる)。曾能夜幣賀岐袁(そのやへがきを)」という和歌の起源とされる歌が掲載されている。展示資料は、熊本藩士で国学者でもあった長瀬真幸(ながせ まさき)が、師の本居宣長の『古事記伝』に従い、『古事記』本文に訓を加えたもの。

42. サラダ記念日 : 俵万智歌集 / 俵万智 著. 河出書房新社, 1987.5 【KH612-337】

俵万智氏の第 1 歌集。日常生活の一コマを描写した親しみやすく散文的な歌風は大きな反響を呼び、販売部数は累計 280 万部を超え、現代短歌史上屈指のベストセラーとなった。俵氏は当時神奈川県立の高校で国語の教員を務めており、在任中には当資料以外にも、昭和 60 (1985) 年の第 31 回角川短歌賞の次席『野球ゲーム』や翌年の第 32 回同賞を受賞した『八月の朝』を発表している。なお本人は後日テレビ番組で、「七月六日はサラダ記念日」の歌は本人の体験をもとにしており、「サラダ」は実際は鶏の唐揚げだったと語っている。

43. 日本俳句史 / 彭恩华著. 学林出版社, 1983.07 【XP-B-8106】

中国では、1980 年代ごろから日本の俳句への関心が高まった。展示資料は中国の俳句専門書としては早い段階で刊行されたもの。室町時代から現代に至る俳句の歴史を 8 章に分け、それぞれの章では時代ごとに活躍した俳人の経歴や代表作を解説している。著者によると、昭和 41 (1966) 年に初稿が完成していたものの、文化大革

命による混乱のため出版が遅れたという。巻末には「古今俳句傑作一千首」として、著者が名句を選び五言・七言の古詩体で中国語に訳したものがまとめられている。文字数や漢字というハードルがありながらも、原作の雰囲気を保つべく訳した著者の努力が推察される。

44. 漢詩鑑賞二百選 / 有原末吉 著. 東京堂出版, 1974 【KG815-10】

中国の漢詩と日本の漢詩とをそれぞれ 100 首ずつまとめたもの。特に漢詩の一部は知っているが全部は知らない、又は知ってはいるが意味が分からない一般層に対して、なぜそれが名作とされているのかを分かりやすく説明することが執筆の目的とされている。作者は五十音順に並べられている。杜甫の『春望』、白居易の『対酒』、孟浩然の『春暁』といった著名な詩のみならず、乃木希典や西郷隆盛の作品も収録している。

45. 情熱の歌人 与謝野晶子展 / [サンケイ新聞社], [1977] 【KG634-71】

昭和 52 (1977) 年に池袋三越で開催された展覧会の図録。手紙や色紙、遺品などの展示品の写真のほか、幼少期や家族と一緒に写る与謝野晶子の写真もある。洋画家の中沢弘光とグラフィックデザイナーの杉浦非水が、歌集『みだれ髪』の歌に絵を添えて制作した「みだれ髪歌かるた」が表紙に使われている。

46. 大岡信全詩集 / 大岡信 著. 思潮社, 2002.11 【KH487-H15】

昭和後期から平成にかけて活躍した詩人・評論家の大岡信の詩集。大岡は昭和 29 (1954) 年に谷川俊太郎氏らが主宰する詩誌の『櫂』に参加し、昭和 47 (1972) 年に『紀貫之』で読売文学賞、昭和 54 (1979) 年から朝日新聞で連載を始めたコラム「折々のうた」で菊池寛賞を受賞した。展示資料では昭和 22 (1947) 年から平成 13 (2001) 年までに発表された詩が詩集ごとに掲載され、末尾には年譜と詩集の解題、著作目録が付いている。

第12回「時空をかける三国志—日本・中国における『三国志演義』の形成と展開」

(平成24年10月18日～11月20日、出展数90点)

平成24(2012)年は日中国交正常化40周年の年でした。これにちなみ、第12回の資料展示では、今もなお多くの人々を魅了する『三国志演義』に関する資料を展示しました。なお、この時に関西館開館10周年記念イベントとして、外部有識者による展示の関連講演会を行いました。資料展示に関連して講演会を開催することは第15回以降定例化し、現在に至ります(※今回は関連講演会は開催しません)。



47. 桃园结义(三国演义) / 罗贯中原著, 徐正中画. 上海人民美术出版社, 1957.10 【XP-A-82551】

建国初期の1950年代、中国では複数の絵をつなげて一つの物語を構成する連環画が盛んに出版された。展示資料は『三国志演義』を連環画にしたシリーズの1冊目。当時の上海で活躍していた歴史ものの連環画の名手たちが参加し、1957年から1961年にかけて全60冊が刊行された。展示箇所は、劉備・張飛・関羽が義兄弟の契りを交わしたシーン。

48. 西班牙藏葉逢春刊本三國志史傳(三國志演義古版匯集)上 / 羅貫中著, 陳翔華主編. 國家圖書館出版社, 2009.8 【KK222-C22】

49. 西班牙藏葉逢春刊本三國志史傳(三國志演義古版匯集)下 / 羅貫中著, 陳翔華主編. 國家圖書館出版社, 2009.8 【KK222-C22】

マドリード近郊のエスコリアル修道院には、天文17(1548)年頃に刊行されたと推定され、現存する中で二番目に古く、挿絵があるものでは最古の『三国志演義』の刊本が所蔵されている。ポルトガル人の宣教師グレゴリオ・ゴンザルベスが布教活動中に明で購入し、リスボンのスペイン大使ファン・デ・ボルハを介して、天正元(1573)年にスペイン国王フェリペ2世に献上された。タイトルに含まれる「西班牙」はスペインを指し、「葉逢春」は明でこの刊本を出版した人物の名前と考えられている。展示資料は、この刊本の影印本。

50. 絵本通俗三国志 上 / (日) 葛飾戴斗編绘. 上海書店出版社, 2003.4
【KG239-C3】

51. 絵本通俗三国志 下 / (日) 葛飾戴斗編绘. 上海書店出版社, 2003.4
【KG239-C3】

日本で刊行された『三国志演義』で最も古い写本は、元禄 2 (1689) 年から 5 (1692) 年に、「湖南文山」という来歴不明の人物が翻訳した『通俗三国志』である。これに絵を付けたのが、作家の池田東籬亭 (いけだ とうりてい) が編纂した『絵本通俗三国志』である。挿絵を担当したのは葛飾北斎の弟子である葛飾戴斗 (かつしか たいと) で、枚数は 400 枚にも及ぶ。木版印刷で、一部の挿絵には色も付いている。この『絵本通俗三国志』を中国の出版社が影印本として出版したのが展示資料で、『通俗三国志』を構成する 50 巻の順に挿絵を収録している。

52. สามก๊ก : ศิลปกรรมจิตรวัดไทยในบางกอก (ศิลปวัฒนธรรม ฉบับพิเศษ) /
สถานติ-นวัตน์ ภัคดีศา. สำนักพิมพ์มติชน, 2549 [2006] 【Y745-S327】

バンコクの寺院にある、主に 19 世紀前半に製作された『三国志演義』をテーマにした壁画や石造彫刻を紹介している。タイでは享和 2 (1802) 年に国王のラーマ 1 世の命により、『三国志演義』のタイ語訳が編纂された。また当時タイと清との交流は盛んで、多くの中国人がバンコクに居住していた。文章はタイ語だが、写真が多いので、内容が分からなくとも見て楽しめるようになっている。

53. 三國志 7 コンプリートガイド 上 / シブサワ・コウ 監修, 超音速, コーエー出版部 企画・編集. 光栄, 2000.9 【Y78-G3704】

コーエーテクモゲームスが販売しているゲーム『三國志』のシリーズの内、平成 12 (2000) 年に発売された「三國志 VII」の攻略本。従来は君主を選ぶ方式だったが、500 人以上に及ぶ武将の中から誰か一人を選ぶ方式に変更された。また武将の身分も君主から在野まで 5 種類に分かれており、何をするのもプレイヤーの自由である。例えば在野を選んだ場合は、成り上がってもよいし何もせずひたすら時代に流されるまま過ごしてもよい。それぞれ時期の違う 7 つのシナリオが用意されており、それを選んでプレイする。

54. 中世から近世初期における朝鮮經由の『三国志演義』受容に関する研究 / 長尾直茂, 上智大学 [著]. [長尾直茂], 2004-2006 【Y151-H16520199】

中世から近世初期の日本での『三国志演義』の受容の経過について、日本の漢詩文

や韓国での文献調査をもとに考察した科研費報告書。「頭巾を被り団扇を持つ孔明」のイメージがいつ頃から生じたのか、中世の禅僧がどの程度『三国志演義』を受容していたのか、『通俗三国志』（【資料番号 No.50・51】参照）の翻訳過程で朝鮮で刊行された『三国志演義』が参照された可能性、などについて考察している。

第 13 回「花ひらく少女歌劇の世界」

（平成 25 年 2 月 21 日～3 月 22 日、出展数 113 点）

第 13 回の資料展示では、大正から昭和にかけて日本各地で成立した少女歌劇に関する資料を展示しました。紙の資料だけでなく、歴史的音源（れきおん）に収録している劇団の公演の主題歌 37 点を聴くことができるコーナーも設けました。また会期中に展示の解説として、「フロアレクチャー」を初めて行いましたが、現在の展示でも関連講演会での資料紹介として引き継いでいます（※今回は関連講演会を行わないため実施しません）。



★55. 大大阪画報 / 大大阪画報社 編. 大大阪画報社, 昭和 3 【576-64】

インターネット公開

大正末期から昭和初期にかけての大阪市は、日本で人口が最も多い都市であり、その繁栄ぶりは「大大阪」と呼ばれていた。その当時の市内の企業や名所をまとめたのが展示資料である。展示箇所はその中の「河合ダンス」に関する部分。河合ダンスは、道頓堀のお茶屋「河合」の主人の河合幸七郎が主宰し大正 10（1921）年に結成された芸妓のダンス団。展示箇所の 1 ページ前には概要の説明があり、「寶塚少女歌劇と比肩して、關西の雄をなしてゐる」とまで評されていた。河合によるダンス団への評価も書かれており、「腰から上の線の働きは、西洋人のそれと比べてはるかに優れて居る」と述べている。

56. ベルサイユのばら：昭和・平成総集編 宝塚グランドロマン / 宝塚歌劇団, 1991.8 【KD597-E20】

宝塚歌劇団が行った「ベルサイユのばら」の公演のうち、昭和 49（1974）年から平成 3（1991）年までのものがまとめられている。写真が中心で、そのほとんどは宝塚歌劇団での公演で撮影された。公演の写真以外にも、オスカルやアンドレなど主要な人物を演じた俳優の写真や、劇中で歌われた楽曲の歌詞・楽譜もある。また冒頭には、平成 3（1991）年に皇太子殿下（現在の天皇陛下）が観覧した際の様子が掲載されている。ちなみに、今年はこの原作となった池田理代子氏の漫画『ベルサ

イユのぼら』が『週刊マーガレット』で連載を開始してから 50 年である。

57. 浅草オペラ物語：歴史、スター、上演記録のすべて / 増井敬二 著. 芸術現代社, 1990.5 【KD338-E79】

浅草オペラは、大正時代に浅草の歓楽街である浅草六区を中心に上演されたオペラやミュージカルの総称。大正 5 (1916) 年に、アメリカでダンスを習った高木徳子の一座が浅草で公演して評判を得たのが始まり。様々な劇団が外国の歌劇や日本の音楽劇、少女歌劇を演じ、入場料が安かったことも手伝い、人気を集めていた。だが関東大震災で大きな被害を受け、大正 14 (1925) 年の公演を最後に消滅した。展示資料は浅草オペラの歴史を時系列的に紹介し、巻末には年表や歌劇場の一つの金竜館で演じられた根岸歌劇団の全演目リストを載せている。

58. 鶴見花月園秘話：東洋一の遊園地を創った平岡廣高：鶴見ゆかりの人物誌 / 齋藤美枝 著. 鶴見区文化協会, 2007.12 【GK52-J11】

大正 3 (1914) 年に開業した児童遊園地の鶴見花月園について、平成 19 (2007) 年の鶴見区 (横浜市) 区制 80 周年記念事業の一環として、郷土史研究家の著者が創設者の平岡廣高の来歴を軸に紹介した資料。大正 11 (1922) 年に園内で結成された花月園少女歌劇は、「東の宝塚」と呼ばれるほどに呼び声が高かった。団員は 50~60 人で、宝塚歌劇団とは異なり男性の団員もいたという。展示資料では、公演の写真や上演演目が掲載されている。

59. Takarazuka phoenix：阪神大震災を乗り越えてタカラジェンヌからの熱いメッセージ / 名取千里 著, ウィズたからづか編集室 編. あさひ高速印刷出版部, 1996.7 【KD597-G33】

兵庫県宝塚市周辺を対象とした月刊の情報誌『ウィズたからづか』の平成 6 (1994) 年 8 月の第 100 号から平成 8 (1996) 年 7 月の第 121 号に掲載された、宝塚歌劇団の団員 19 人と演出家・振付家・作曲家に対するインタビュー記事をまとめたもの。阪神大震災当時を回顧したものが主な内容。展示資料のインタビュー記事のうち最初にある麻路さき氏に対してのものは、震災後に取材を再開して最初に行われたインタビューである。

60. 小島利男と私：都の西北と松竹少女歌劇 / 小島千鶴子 著. ベースボール・マガジン社, 1994.10 【KD962-E497】

著者の小島千鶴子は、東京松竹楽劇部（のちの松竹少女歌劇）で「小倉みね子」として活躍した人物。その夫がタイトルにある小島利男で、早稲田大学在学中に野球部で活躍し、卒業後は大阪タイガースに入団した。展示資料は、著者が88歳になったのを機に出版した自伝。夫との出会いから死別までを記した第一部と、著者が昭和4（1929）年に劇団に入団してから昭和14（1939）年に退団するまでについて述べた第二部とに分かれる。

第14回「東南アジア世界遺産の旅」

（平成25年8月22日～9月21日、出展数88点）

平成25（2013）年は、6月に富士山が世界遺産に登録され、世界遺産への関心が高まった年でした。また、ASEAN（東南アジア諸国連合）との



交流が始まってから40周年でもありました。こうしたことから、第14回の資料展示では、東南アジアの世界遺産についての資料を、登録前の様子を伝えるものなども含め出展しました。現在のように年度上半期と下半期に1回ずつ行うという形式が確立したのは、この回以降です。

★61. 世界周遊：写真集 第2（ソ連邦,中近東諸国,インド,東南アジア諸国,中国,朝鮮,台湾） / 修道社, 1960 【290.8-Se1223】

館内／図書館・個人送信

各国の観光地や日常生活の様子を撮影した写真集。3巻シリーズの2巻目で、1巻目はヨーロッパおよびアフリカ、3巻目は南北アメリカとオセアニアが対象である。各巻は前半に写真を載せ、後半に各国の旅行案内を簡潔に述べている。展示箇所は、フィリピンのコルディリエラの棚田群（1995年登録）での農作業の風景である。また展示箇所ではないが、この巻はソビエト連邦も含んでいるので、現在のウクライナのキーウやドネツク（当時はスターリノ）、オデーサの写真も掲載している。

62. The official guide to Ayutthaya and Bang Pa-in / by Tri Amatayakul 2nd ed / The Fine Arts Department, 1973 【GE561-87】

タイ王国文化省芸術局が発行した、アユタヤ（1991年登録）とその近隣にあるバンパインについてのガイドブック。タイ政府は1950年代から1960年代にかけてアユタヤの開発や発掘、遺跡修復を行っていた。この資料の初版は昭和34（1959）年に刊行されていたものの、そうした状況を受けて改訂が必要となったため、第2版である展示資料が刊行された。各遺跡の写真や説明はもちろん、バンコクからアユ

タヤマまでの鉄道の時刻表や折り込みの地図、レストランやホテルの案内もある。

63. 世界遺産年報 : the world heritage, (18):2013 / 日本ユネスコ協会連盟 編. 講談社, 2007-2018 【Z71-L690】

前年に登録された物件を中心に世界遺産を紹介する雑誌。平成 25 (2013) 年号は、前年の平成 24 (2012) 年が世界遺産条約採択 40 周年に当たることから、世界遺産の制度としての歴史や日本ユネスコ国内委員会の委員の西村幸夫氏へのインタビューなどが掲載されている。第 14 回の展示テーマである東南アジアの関連では、アンコール遺跡群の修復に関する特集記事がある。なお平成 24 (2012) 年には、インドネシアとマレーシアの物件それぞれ 1 件や、リオデジャネイロのコルコバードのキリスト像など、26 件が新規に登録された。

64. 7 日でめぐるインドシナ半島の世界遺産 / 樋口英夫 著. めこん, 2003.4 【GE511-H11】

インドシナ半島にある世界遺産のうち、アンコールワット (1992 年登録) やスコータイ (1991 年登録)、ホイアン (1999 年登録) など 7 か所について紹介している。白黒が多いものの写真が豊富で、見開き 2 ページにわたるものも少なくなく、見ごたえのあるものとなっている。またタイトルのとおり、7 日間で 7 か所の世界遺産を周遊するプランが巻末に紹介されており、ビザの取り方や現地の主要なホテルの情報も簡潔ながら記されている。

65. キナバル山 : ボルネオに生きる…自然と人と / 安間繁樹 著. 東海大学出版会, 2004.10 【GE531-H8】

キナバル山はボルネオ島北部に位置する標高 4095m の山で、マレーシアの最高峰である。周辺のキナバル公園 (2000 年登録) には、世界最大の花であるラフレシアや、世界の半数にも及ぶ 30~40 種類のウツボカズラが分布している。著者は 1985 年にボルネオを初めて訪問し、翌年からは国際協力機構 (JICA) から派遣される専門家として 14 年近くボルネオに滞在した。展示資料では、島民の生活や島の歴史、動植物などを紹介している。

66. ポロブドール / 田枝幹宏 撮影, 伊東照司 解説. 山川出版社, 1998.7 【K166-G5】

ジャワ島の仏教遺跡であるポロブドゥール (1991 年登録) について、基壇側面に描

かれた浮彫パネルを中心に解説したもの。浮彫パネルは、釈迦の一生などの仏教説話が題材となっている。展示資料は各章の最初に、どこにどの浮彫パネルがあるかを平面図で示し、それに続いて個々の説話ごとに節を分け、写真とその解説とを載せている。専門用語は無く一般向けに分かりやすく書かれており、説話の意味を理解しやすい。

67. アンコール・ワットへの旅：人類の至宝、カンボジアの誇りを守る（講談社カルチャーブックス；65） / 平山郁夫 [ほか]著. 講談社, 1992.11 【GE81-E16】

アンコール・ワットや周辺の遺跡（1992年登録）を総合的に扱っている。解説を主に担当しているのは、遺跡の修復に携わった石澤良昭氏。画家の平山郁夫によるスケッチ付きの寄稿もある。展示資料が刊行された平成4（1992）年は、その前年に内戦終結の和平協定が結ばれた直後だった。多くの課題を抱えながらも復興に向けて歩み出した当時の様子をうかがい知ることができる。

第15回「日本酒の近代化と洋酒の国産化 —ニッポンの酒造り」 （平成26年2月20日～3月29日、出展数83点）

第15回の資料展示では、日本酒と洋酒という二つの視点から、主に近代以降に焦点を当て、お酒の歴史を振り返りました。ビールやワイン、ウイスキーなどの洋酒を国産化するために、日本人がどのように挑んだのか、ということが主要なテーマでした。



★68. 特命全権大使米欧回覧実記 第2篇 英吉利国ノ部 / 久米邦武 編. 博聞社, 明 11.10 【34-88】

インターネット公開

岩倉使節団のビール工場見学の様子が描かれている。欧州において、酒類が有力な貿易品として扱われていることに触れるとともに、「醸造術ハ日本ノ長技」と述べ、日本産の醸造製品を輸出する可能性に言及している。

69. ウイスキー・エンサイクロペディア / マイケル・ジャクソン 著, 土屋希和子, Jimmy 山内, 山岡秀雄 訳. 小学館, 2007.2 【DL687-H225】

大麦やライ麦、トウモロコシなどを原材料とした蒸留酒で、世界各地で独自の発展を遂げたウイスキー。この本では、ウイスキーの歴史や製造に関わる諸要素、世界各地に点在するウイスキー生産地域の特徴について解説している。日本の生産地も

紹介。

70. ヒゲのウキスキー誕生す：日本で初めてウイスキーをつくった男：竹鶴政孝物語 / 川又一英 著. アサヒビール, 2011.1 【DL687-J165】

ニッカウキスキーの創業者であり、日本における本格ウイスキー製造の第一人者として名高い竹鶴政孝。本書では、模造酒（本格ウイスキーとは製造法の異なる国産洋酒）が広く市場を流通していた時代において、竹鶴の歩んだ困難な道のりが描かれている。

71. サッポロビール 120 年史：Since 1876 / サッポロビール株式会社広報部社史編纂室 編. サッポロビール, 1996.3 【DH22-G41】

サッポロビールの社史。源流である「開拓使麦酒醸造所」の設立から、事業の多角化が進んだ平成に至るまで、その歴史を詳述している。巻末の「広告宣伝編」には、過去のポスターや新聞広告を多数掲載。

72. 酒造りの歴史（雄山閣 books ; 20） / 柚木学 著. 雄山閣出版, 1987.6 【DL687-E18】

展示資料では、近世日本における酒造業の発展に着目し、社会経済的側面と醸造技術史的側面を考察している。第 15 回資料展示では、特に明治期の日本酒にまつわる税制度の変遷に注目した（第 13 章 明治前期酒造業の展開と酒屋会議）。

73. 伏見酒造組合一二五年史 / 伏見酒造組合一二五年史編纂委員会 編. 伏見酒造組合, 2001.10 【D3-G480】

江戸時代から近代にかけての、現在の京都市伏見区及びその周辺地域における酒造業の発展や受難を詳述している。巻末に収録された組合員紹介ページからは、各社がいかにこの地域に根付き、進歩を遂げてきたのかが見て取れる。

74. 國酒等の輸出促進プログラム / 内閣官房国家戦略室 編. 経済産業調査会, 2012.12 【DL687-L3】

「ENJOY JAPANESE KOKUSHU」推進協議会にて取りまとめられた提言を主として、関連するデータを付した資料。近年では、国家プロジェクトとして日本酒・焼酎（泡盛を含む）の輸出促進が図られてきたことが分かる。

第16回「宇宙に夢中 -古代の宇宙観から「はやぶさ」まで-」

(平成26年7月17日～9月16日、出展数70点)

平成26(2014)年は、5月に日本人で初めて国際宇宙ステーション船長に就任した若田光一氏が地球に帰還し、12月には小惑星探査機「はやぶさ2」が打ち上げられました。第16回ではそれに関連して、宇宙をテーマとした展示を行いました。



★75. 視実等象儀記：一名・天地共和儀記 初篇 / 佐田介石 著. 藤田古梅, 明治10.8 【244-379】

インターネット公開

視実等象儀とは、須弥山を中心に世界が広がる仏教的宇宙観をモデル化したもので、本書はその解説書。視実等象儀の写生画に各部の名称などが付記されている。当時日本でも普及しつつあった西洋の宇宙観を批判し、須弥山説こそ宇宙の実態であると主張している。

76. アジアの星物語：東アジア・太平洋地域の星と宇宙の神話・伝説 / 海部宣男 監修, 柿田紀子, 川本光子 邦訳, 「アジアの星」国際編集委員会 編. 万葉舎, 2014.2 【KE222-L4】

東アジア、東南アジア、太平洋諸島に伝わる宇宙や星に関する神話と伝説を収録。各国・各地域の画家が自由に描いた挿絵が特徴的。巻末には、アジア地域の神話・伝説の背景的知識(宇宙観や天文学)をまとめた解説が付されている。

77. オンリーワン：ずっと宇宙に行きたかった / 野口聡一 著. 新潮社, 2006.3 【NC161-H64】

日本人宇宙飛行士、野口聡一氏による手記。幼少期のエピソードに始まり、宇宙飛行士に選ばれ、何度も打ち上げ延期を経て宇宙に行き、帰還するまでが詳細に記されている。

78. ハッブル宇宙望遠鏡によるビジュアル宇宙図鑑：詳細画像でわかる宇宙の姿 / 沼澤茂美, 脇屋奈々代 著. 誠文堂新光社, 2010.10 【MB21-J77】

ハッブル宇宙望遠鏡とは、平成2(1990)年に打ち上げられ、地球の周回軌道に配置された宇宙望遠鏡である。ハッブル宇宙望遠鏡の最大の特徴である高解像度で撮影された、美しい宇宙の写真が掲載されている。

79. ファイナル・フロンティア = FINAL FRONTIER : 有人宇宙開拓全史 / 寺門和夫 著. 青土社, 2013.11 【NC161-L24】

人類初の有人宇宙飛行からアポロ計画、スペースシャトルの運用、そして国際宇宙ステーションの建設にいたるまで、数多くのミッションを紹介している。緊迫感のある現場のやりとりが丁寧に描写されており、世界の宇宙開発史が概観できる一冊。

80. 日本の宇宙技術の主なスピノフ事例 2008 年版 (宇宙航空研究開発機構特別資料 JAXA-SP-07-25) / 宇宙航空研究開発機構, 2008.3 【NC161-J41】

宇宙開発のために開発された技術は、私たちの生活のさまざまな場面で役立てられている。スパイク、エアバッグ、糖度センサーなど、意外なところでの宇宙との繋がりがわかる資料。

第 17 回「明日のレシピはフルコースー作りたい味を見つけようー」

(平成 27 年 1 月 22 日～3 月 17 日、出展数 571 点)

平成 25 (2013) 年に「和食；日本人の伝統的な食文化」が無形文化遺産に登録されたことは、和食を中心として食文化への関心が高まる契機となりました。第 17 回では、定番メニューから近代の料理書、アジア諸国など各国の料理のレシピを展示しました。出展した資料は 571 点と、資料展示史上最多に及びます。



★81. 素人庖丁：即席料理 下 / 赤志忠雅堂, 明 26.6 【特 41-858】

インターネット公開

江戸時代に刊行された『素人庖丁』を下敷きとした料理書。巻末にわずかながら西洋料理のレシピが加えられており、「サンドイッチ」「コロケ」「カレイ」といったメニューが見える。「カレイ」の項には、ネギや生姜、唐辛子を細かく刻んで入れるという記述がある。

82. すし技術教科書 江戸前ずし編 改訂版 / 旭屋出版, 1989.10 【EF27-E912】

全国すし商環境衛生同業組合連合会が監修し、すし業界全体のレベルアップ、若手すし職人の育成・技術指導を目的として刊行された技術書。第四篇には「ギャンブルにうつつをぬかしてはいけない」(p.358)など、後進へのユニークな助言を含む。

83. お雑煮 100 選：全国から集めた伝統の味 / 文化庁文化財部伝統文化課, 2005.3 【EF27-H459】

平成 16 (2004) から 17 (2005) 年の年末年始に文化庁が主催した、「お雑煮 100 選」への応募作品を書籍化したもの。一般公募で集められた全国各地のお雑煮レシピと、お雑煮にまつわるエピソードを多数掲載。応募者自身が撮影したお雑煮の写真には、家庭的な温かみがある。

84. チャラカの食卓：二千年前のインド料理 / 伊藤武, 香取薫 著. 出帆新社, 2008.8 【EF27-J213】

『チャラカ本集 (サンヒター)』に記載された食材や料理をもとに復元した、インド料理レシピを掲載。唐辛子普及以前のインドの食事情を、イラストや著者の旅行記を交えつつ紹介している。後出の『唐辛子遍路』とあわせて読みたい。

85. 近世菓子製法書集成 1 (東洋文庫) / 鈴木晋一, 松本仲子 編訳注. 平凡社, 2003.1 【EF27-H75】

86. 近世菓子製法書集成 2 (東洋文庫) / 鈴木晋一, 松本仲子 編訳注. 平凡社, 2003.2 【EF27-H97】

江戸時代に刊行された、菓子製造の専門書 7 冊をまとめている。原文の翻刻と、現代語訳を順次掲載する形式。要所に挿入される注釈により、背景も理解しやすい。底本の著者の誤記や誤認と考えられる箇所まで、丁寧に注が振られている。

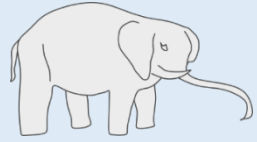
87. 唐辛子遍路 (ハウスポケットライブラリー ; 2) / ハウス食品工業, 1988.3 【EF27-E479】

ハウス食品工業 (現在のハウス食品株式会社) から刊行されたシリーズ「ハウスポケットライブラリー」の 1 冊。唐辛子を使った世界のレシピを多数掲載するとともに、唐辛子の文化や歴史を紹介。「第 11 章 色・香り・風味をいかしたオリジナル唐辛子料理」には、お菓子のレシピまで掲載されている。

第18回「古今東西いきもの絵巻ーいる、いない、もういないー」

(平成27年8月20日～9月15日、出展数72点)

第18回は、平成27(2015)年がアンリ・ファブルの没後100年に当たることから、昆虫を含め動物全般をテーマとしました。副題が示すとおり、絶滅した動物についての資料も展示しました。



★88. 普通動物の観察 / 博物研究所 編. 松村三松堂, 明治41.10 【17-349】

インターネット公開

博物学の視野からあらゆる動物の特徴を記述したもの。特に動物の分類・分布に強みを持っており、種の派生についても詳しく書かれている。巻頭に出てくる動物の群像を描いた一枚絵は鮮明で、美術的なおもしろみももった資料。

89. 世界動物大図鑑 / デイヴィッド・バーニー 総編集, 日高敏隆 日本語版総監修. ネコ・パブリッシング, 2004.3 【RA6-H10】

無脊椎動物から哺乳類まで、2000種以上の動物種をフルカラーで取り上げた大型の図鑑。躍動感ある野生生物の写真も多数掲載。単に種の特徴を書き並べるにとどまらず、コラム的な紹介がしばしば差し挟まれ、より深く動物を知ることができる。

90. 図説・動物文化史事典：人間と家畜の歴史 / J.クラットン=ブロック 著, 増井久代 訳. 原書房, 1989.8 【RB511-E8】

本書では、氷河時代末期(約1万年前)以降の動物の家畜化の初期段階について考古学的、歴史的に考察している。人類はどのように動物の暮らしを操作し、人間社会に組み込んでいったのかが描かれている。

91. 図説・世界未確認生物事典 / 笹間良彦 著. 柏書房, 1996.10 【KE185-G14】

フェニックス、ケルベロス、麒麟(きりん)、スフィンクスなど、世界中の未確認生物が紹介されている。形態的に似ているため、同一視されがちなドラゴンと龍の違いについても言及されており、それぞれの持つ性質がわかる。

92. 動物たちの物語：ヨーロッパに伝わる神話・伝説を集めて / 浅井治海 著. フロンティア出版, 2009.11 【KE178-J38】

西洋の神話や伝承において、動物がどのように登場しているのかが種ごとにまとめられている。一部、著者により背景が説明されている箇所もあるが、基本的には神話・伝説の要旨紹介に徹しており、事典のような体裁がとられている。

93. 恐竜学入門：かたち・生態・絶滅 / FASTOVSKY, WEISHAMPEL [著], 真鍋真 監訳, 藤原慎一, 松本涼子 訳. 東京化学同人, 2015.1 【ME587-L21】

恐竜を専門的に学ぶ上で必要な基礎知識を広く取り扱った入門書の翻訳版。大学生向けに書かれた本ではあるが、図版や写真も多く、一般の読者にも読みやすくまとめられている。

94. 世界の絶滅危惧生物図鑑：IUCN レッドリスト / IUCN 編, 岩槻邦男, 太田英利 訳. 丸善出版, 2014.1 【RA4-L4】

IUCN (国際自然保護連合) が作成しているレッドリストに基づく生物図鑑。365 の絶滅の危機に瀕する生物の情報を、美しい写真とともに掲載している。絶滅の危機の度合いや、現在とられている保護策なども紹介。

第 19 回「おそれと祈りーまじないのかたちー」

(平成 28 年 2 月 18 日～3 月 15 日、出展数 122 点)

第 19 回は、人知を超えた事象に人類が抱いた、おそれや祈りといった心の動きに焦点を当てました。お守りやお札を始めとした道具や、迷信・都市伝説のような口承などについて、文化的・民俗学的考察を行っている資料を主に展覧しました。時事的な側面があまり強くないテーマとなったのは第 10 回以来と久々ですが、この回以降、展示のテーマは時事的なものではない傾向が強まります。



★95. 起上小法師画集 第 1-12 集 / 川崎巨泉 画, 木戸忠太郎 編. 木戸忠太郎, 大正 13-14 【414-20】

インターネット公開

堺市の郷土玩具画家である川崎巨泉による起上小法師(おきあがりこぼし)の画集。起上小法師とは、何度倒しても起き上がることから「七転び八起き」の精神を表すとされている人形を指す。だるま以外にも、キューピーや童子、中国の翁、桃をもった猿などがユーモラスに描かれている。

96. 大絵馬ものがたり 1 (稲作の四季) / 須藤功 著. 農山漁村文化協会, 2009.9 【Y2-N09-J221】

大絵馬とは、神社の拝殿や絵馬堂、寺院の内陣などに掲げられる大きな絵馬を指す。本シリーズは各地の大絵馬の写真を収録・解説したものの。1巻は「稲作の四季」と題され、五穀豊穡を願う絵馬を紹介している。

97. 図説西洋護符大全：魔法・呪術・迷信の博物誌 / L.クリス=レットンベック, L.ハンスマン 著, 津山拓也 訳. 八坂書房, 2014.5 【G189-L22】

日本と異なる文化的・宗教的背景を持つ西洋でも、古くから人間とともにあった「魔除け」。人間の寿命を超えて存在する鉱物、厳しい生存競争を生き抜く生命力豊かな植物や動物、そして人間自身の形象までもが、魔除けの造形の基になっていたことが分かる。

98. ひとがた・かたしろ・人形 / 栗東歴史民俗博物館, 1999.10 【KB16-G723】

栗東歴史民俗博物館による企画展「ひとがた・かたしろ・人形」の展示会図録。人形の起源は、身についた穢れを払うための”ひとがた”であるといわれている。まじないの道具としてのひとがたから、人形に至る系譜を紹介している。

99. 日本の歴史 古代 8 (占い・託宣・聖所での夢) 新訂増補 (週刊朝日百科 ; 48) / 朝日新聞社, 2003.5 【GB71-H50】

古代、人は夢や占いから神意を得られると考えていた。本書では、神託によって重要な決定がなされた事例を引用して、古代から平安時代にかけての様々な占いとその歴史を紹介している。

100. 禁忌習俗事典：タブーの民俗学手帳 / 柳田国男 著. 河出書房新社, 2014.8 【GD38-L30】

本書は、「忌み」の事例を多数集めることで、忌みのもつ両義性—聖なるものを畏れ遠ざかることと不浄なるものを避けること—の根本にある考え方を明確化しようと試みている。今では忘れられた多くの習俗が収録されている。

101. 人身御供祭祀論 / 六車由実 [著]. [六車由実], [2002] 【UT51-2002-F326】

人身御供譚を由来に持つ祭の性格と内容を伝承と儀礼の側面から分析している。第25回サントリー学芸賞（思想・歴史部門）を受賞した『神、人を喰う：人身御供の民俗学』（2003年）は、この博士論文をもとに加筆したもの。

第20回「ロボット進化中！—神話・からくり人形から最新ロボットまで—」

（平成28年8月18日～9月20日、出展数160点）

近年、人型ロボットや人工知能の開発が注目を集め、日常生活にも浸透しつつあります。また、当館が立地するけいはんな地域でも、これらの技術開発が行われています。第20回の展示では、ロボットの歴史を概観することをテーマとしました。



★102. 大地のはらわた / 西村真琴 著. 刀江書院, 昭和5 【609-53】

館内／図書館・個人送信

昭和初期に大阪で製作された、東洋初のロボットといわれる「学天則」の生みの親、西村真琴の著作。学天則の製作を思い立った動機や、その名前や姿に込めた理想、開発にあたって工夫を凝らした点などが、写真を交えて生き生きと語られている。

103. 図説からくり：遊びの百科全書（ふくろうの本）/ 立川昭二 [ほか]著. 河出書房新社, 2002.4 【M31-G56】

国内外のからくりの歴史や仕組みについて、写真や図を多用し解説している。著者の1人であるからくり人形師の7代目玉屋庄兵衛は、祇園祭における人気の山鉦、螻螂山（とうろうやま）のからくり復元を手掛けたことでも有名。

104. 日本ロボット創世記：1920～1938 / 井上晴樹 著. NTT 出版, 1993.2 【M131-E151】

105. 日本ロボット戦争記：1939～1945 / 井上晴樹 著. NTT 出版, 2007.8 【M131-H314】

本シリーズは、カレル・チャペックが『R.U.R』を発表した大正9（1920）年を起点として、新聞報道、雑誌記事、漫画やSF小説から広告まで、ロボット関連の資料を広く収集、動向を整理している。『日本ロボット創世記』は大正9（1920）年から昭和13（1938）年まで、『日本ロボット戦争記』は昭和14（1939）年から昭和20（1945）年までを対象とする。

106. ロボットマンガは実現するか：ロボットマンガ名作アンソロジー+ロボット開発最前線報告 / 米沢嘉博 編. 実業之日本社, 2002.7 【M131-G245】

ロボット研究者へのインタビューをまとめた本。名作ロボット漫画への感想を起点に、実際の研究成果まで話題を敷衍する形でインタビューが展開される。『鉄腕アトム』『ドラえもん』など、有名作品の一部抜粋も掲載。

107. けいはんな(京阪奈)大いなる実験：西のハイテク頭脳拠点・関西文化学術研究都市 / 日刊工業新聞特別取材班 編. 日刊工業新聞社, 2004.11 【M42-H118】

けいはんな学研都市に位置する多数の企業や研究所の取組を紹介。国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) のヒューマノイドロボット研究や、情報通信研究機構 (NICT) けいはんな情報通信融合研究センターの赤ちゃんロボット研究などが取り上げられている。

108. コミュニケーションロボット (知の科学) / 石黒浩, 宮下敬宏, 神田崇行 共著, 人工知能学会 編. オーム社, 2005.4 【M121-H143】

コミュニケーションロボットとは、日常生活の中で人間と対話する機能をもつ「人間らしい」ロボットを指す。本書では、その開発方法論、メカニズムや、具体的な要素技術、評価手法などを解説。著者は ATR 所属の研究者 3 名 (出版当時)。

第 21 回「梅尽くし—和歌から絵画、食卓まで—」

(平成 29 年 2 月 16 日～3 月 14 日、出展数 101 点)

年度下半期の展示が行われる期間は、梅が見ごろを迎える時期でもあります。春の訪れを告げる梅は、奈良時代には既に「令和」の由来となった「梅花の歌」が詠まれるなど、千年以上にわたり日本人に愛されてきました。第 21 回の展示では、梅について、鑑賞や栽培、美術や食品としての側面から取り扱いました。



★109. 梅つくし / 古谷紅麟 著. 山田芸艸堂, 明 40.2 【22-387】

インターネット公開

京都市美術工芸学校 (現・京都市立芸術大学) で教鞭をとった図案画家・古谷紅麟による、梅をモチーフとした図案集。古来用いられてきた梅の文様のイメージだけ

に捉われない鮮やかな色遣い、斬新なデザインが目を引く。

110. 梅と日本人 / 小林祥次郎 著. 勉誠出版, 2008.2 【KG748-J31】

万葉集や懐風藻といった奈良時代の文学から始まり、平安時代の仮名文学、漢詩文学、室町時代の五山文学などに取り上げられた梅の歌を概観できる。付章として、梅同様に春の風物である鶯（うぐいす）についての考察も加えられている。

111. 日本の梅・世界の梅 / 堀内昭作 編, 堀内昭作 [ほか]共著. 御津町, 1996.3 【RB177-G8】

日本と世界の梅の生産事情から生物学的特性、起源と歴史、品種、系統、分類などを幅広く取り上げる解説書。写真や図を多用しており、分かりやすい。後半部分は文化史も網羅されており、古来、梅が、日本や中国でどのように愛でられてきたかを概観することができる。

112. 梅干（ものと人間の文化史 ; 99） / 有岡利幸 著. 法政大学出版局, 2001.6 【GD51-G167】

日本文化と梅干の関係を主題とした本。食す、病を治すという実用性を持つ梅の実が、時代を超えて重宝されてきたことがわかる。著者は「ものと人間の文化史シリーズ」の『梅』にて、梅の文化的な観点をもまとめている。

113. 梅の発達史：その効能と漬物等加工法 / 山崎茂 著. 信毎書籍出版センター, 2011.9 【RB177-J17】

著者自らが長年食品加工に従事した経験と晩年の自家加工をもとに、主に梅の加工法について記している。梅を各種食品に加工するための器材や調味料に至るまで、写真を交えて詳しく紹介している。

114. 「華麗なる梅花の表現展」図録 / 茨城県近代美術館 編. 茨城県近代美術館, 2005 【K16-H551】

茨城県近代美術館で平成 17（2005）年に開催した「華麗なる梅花の表現展」の展示会図録。「梅花表現の伝統」、「近代における梅花表現の展開」、「意匠の中の梅」の 3 部から成る。日本美術の中で多様な展開を見せてきた梅花の表現を紹介する。

115. 青谷梅林と奈良鉄道：近代城陽の産業と交通 春季企画展（城陽市歴史民俗資料館展示図録；6） / 城陽市歴史民俗資料館 編. 城陽市歴史民俗資料館, 1997.2 【GC158-G20】

平成9（1997）年に城陽市歴史民俗博物館で開催された企画展「青谷梅林と奈良鉄道」の展示会図録。京都府城陽市の青谷梅林における梅栽培の衰退と、奈良鉄道の開通を背景とした観光地としての復興の過程を辿る。

**第22回「明かりをつくる、光をいかす —照明から建築・アートまで—」
（平成29年8月17日～9月19日、出展数111点）**

第22回の展示では、照明器具の発展やそれに伴う暮らし・景観の変化、明かりや光を取り入れた文化について扱いました。また、関西館の建物が自然光を活かした設計になっていることから、自然光を意識した建築についても紹介しました。



★116. 京都・大阪・神戸明りの名所 / 照明学会照明智識普及委員会 編纂. 照明学会照明智識普及委員会関西委員会, 昭和8 【特253-930】

インターネット公開

昭和初期の京都・大阪・神戸における、街路の照明、建物の外観・内観の照明などを集めた写真集。展示箇所では、新世界交差点（大阪市）にあったグリコの電気サインと長堀橋（大阪市）にあった日の本足袋の電気サインが紹介されている。

117. 灯火：その種類と変遷 / 宮本馨太郎 著. 朝文社, 1994.11 【GD59-E97】

縄文時代の火の使用から明治時代のランプに至るまで、日本における灯火の歴史を簡潔にまとめた一冊。著者の宮本馨太郎（けいたろう）は民具研究で知られる。昭和39（1964）年に六人社から刊行された資料の再刊。

118. 電笠：明治・大正・昭和初期のあかり 2 / 高橋岳志 編著. 里文出版, 1998.7 【KB16-G236】

明治から昭和初期にかけて使用されていた電笠（電灯にかけるシェード）を、大判のカラー写真で紹介。切子やぼかしなどの技が施され、色とりどりで形もさまざまなガラス製の電笠は美しく、当時の職人技術の高さをもうかがわせる。

119. 「白い光」を創る：社会と技術の革新史 / 宮原諄二 著. 東京大学出版会, 2016.2 【ND269-L18】

人類が火を作り出す技術を発明したのがおよそ 100 万年前であるのに対し、昼間のような「白い光」の創出に成功したのは 19 世紀以降である。「白熱ガス灯」「白熱電球」「白色蛍光灯」「白色発光ダイオード」の四つの技術革新の歴史と、それに伴う産業の盛衰を追っている。

120. 赤の発見青の発見：高輝度 LED で光の三原色をつくった天才たち / 西澤潤一, 中村修二 著. 白日社, 2014.11 【ND371-L53】

高輝度赤色 LED の開発を含め、半導体分野において多大な功績がある西澤潤一氏と、高輝度青色 LED の開発者の一人である中村修二氏の対談が中心。研究の経緯、これまでの取組や今後の展望まで、幅広い内容が語られている。

121. ワヤン：インドネシアの人形芝居 / 東京国立博物館 編. 東京国立博物館, 2010.9 【Y111-J1892】

「ワヤン」とはインドネシア語で「影」を意味する言葉であり、インドネシアの人形芝居を指す。展示資料では、影絵芝居「ワヤン・クリ」で用いられる、水牛の皮などで作った色鮮やかな人形を多数紹介している。

122. 光の空間：Modern architecture 第 1 巻 / 二川幸夫 企画・撮影. A.D.A.EDITA Tokyo, 1994.8 【YQ11-1136】

123. 光の空間：Modern architecture 第 2 巻 / 二川幸夫 企画・撮影. A.D.A.EDITA Tokyo, 1994.9 【YQ11-1136】

光を印象的に取り入れた建築を近代から現代に至るまで紹介する 2 冊組の写真集。ガウディやフランク・ロイド・ライト、アルヴァ・アールトなど著名な海外の建築家の手がけた建築のほか、安藤忠雄氏や妹島和世氏の建築も取り上げられている。

第 23 回「犬も歩めば本になる —歴史から研究・物語まで—

(平成 30 年 2 月 22 日～3 月 20 日、出展数 101 点)

平成 30 (2018) 年が戌年であることにちなみ、第 23 回の展示では、犬をテーマとしました。ペットの犬や盲導犬などの働く犬、美術の対象となった犬など、古くからの犬と人との関係を様々な側面から振り返りました。



★124. 犬の飼ひ方 / 高橋虎雄 著. 文化生活研究会, 大正 15 【564-72】

インターネット公開

大正 14 (1925) 年に東京放送局 (現: 日本放送協会 (NHK)) が放送した犬の飼ひ方講座に対する大きな反響を受け、翌年、一般家庭向けに刊行された。犬種やしつけ、食性、住環境から病気まで、一通り概論している。目次には「仔犬の第一の敵、蛔蟲 (かいちゅう) 退治の法」、「犬は何ヶ月で學齡に達するか」など、時代を感じさせる言葉が並ぶ。著者は犬語の研究者でもあり、最終講では犬の鳴き声の種類と意味について解説している。

125. 犬を科学する / 石橋晃, 板橋久雄, 桜井富士朗, 島田真美, 祐森誠司, 本澤清治 監修. 養賢堂, 2017.4 【RB651-L303】

小動物栄養研究会の活動を基に、犬についての研究全般を分かりやすい語り口で著した概説書。犬の歴史、遺伝、品種、飼育状況、体の仕組、行動や認知の仕方、健康と病気、食べ物、動物福祉など、犬とはどんな動物かを知るための知識を幅広く紹介している。巻末の「飼い主のそこが知りたい Q&A」では、飼い主が気になる犬の様々な疑問が簡潔に解説されるなど、犬について知りたい人だけでなく、犬の飼い主にとっても役立つように意図されている。

126. 働く犬たち / メリリー・ウェイズボード, キム・カチャノフ 著; 佐倉八重 訳. 中央公論新社, 2003.5 【RB651-H51】

北米、ヨーロッパ、アフリカなど、世界各地で働く犬たちの一日をドキュメンタリー形式で切りとって紹介した本。盲導犬や介助犬のように、仕事の内容が比較的知られている犬たちばかりではなく、ヘリコプターから飛び降りて溺者を救助するイタリアの水難救助犬、火災現場で匂いを嗅ぎあて、放火事件の解決に貢献するイギリスの放火探知犬など、様々な任務を帯び、人間の片腕として活躍する犬たちが登場する。

127. 犬の帝国：幕末ニッポンから現代まで / アーロン・スカブランド [著], 本橋哲也 訳. 岩波書店, 2009.9 【GB411-J52】

日本の近代史において犬が果たした役割を探ることで、犬を通して人間を見つめ直すことを目的に記された。犬に象徴されるものは、ある時は国民性、またある時は軍国主義やステータスというようにめまぐるしく変化し、その検証は人間について考えるに当たり新たな視点を与えてくれる。徳川将軍がペリーへ贈った狆 (ちん)、

テレビCMで一躍人気チワワとなったくぅーちゃんなど、登場する犬はバラエティに富む。

128. ビジュアル犬種百科図鑑 / ドーリング・キンダースリー社編集部 編, 神里洋 監修, [田村明子] [訳]. 緑書房, 2016.3 【RB2-L72】

世界の主要な犬種 420 種の解説を掲載し、犬と人との文化史や犬の生態、飼い方についての解説も加えた大判の犬の図鑑。古代犬、使役犬、スピッツ・タイプ、視覚ハウンド、嗅覚ハウンド、テリア、鳥猟犬、愛玩犬、交雑種の 9 犬種に分け、それぞれの犬が持つ特徴や性格、関連する小話などが掲載されている。読者は、犬との関わり方、飼い方のヒントを得るとともに様々な犬の表情を楽しむことができる。

129. 犬名辞典 : 452 匹の名前と感動のストーリー / 福田博道 著. グラフ社, 2006.11 【RB651-H332】

人名辞典の犬版。實在、架空を問わず、有名な犬や著名人の飼い犬などが名前とともに数多く紹介されている。展示資料 No.130 『蓄犬談』に出演の「ポチ」を含め、「ぼち/ポチ」は 9 匹登場。著者は、展示資料を命名の際の参考資料に位置付け、「仔犬の名前を考えている時間ほど、人生のなかで贅沢なひと時はない」と述べている。犬を飼う人たちの、命名への真剣さがうかがわれる。

130. 太宰治全集 第 3 巻『蓄犬談』（筑摩全集類聚） / 筑摩書房, 1978.8 【KH84-9】

昭和 14 (1939) 年に発表された短編作品。犬嫌い、犬に対し「青い焰が燃え上がるほどの、思いつめたる憎悪」を抱いた主人公が、野良犬に懐かれて飼う羽目に陥り、ある出来事をきっかけに、犬への捻じれた感情に気付くまでが、ユーモアを交えて語られている。太宰は、野良犬に悩まされた鬱憤を晴らすつもりで書き始めたが、意外にも滑稽な作品に仕上がったので、「憤慨もまた度を超すと滑稽に止揚するものらしい」と振り返っている。

第 24 回「百花繚乱！ ガーデニングの世界」

（平成 30 年 8 月 16 日～9 月 18 日、出展数 104 点）

第 24 回は、身近に親しむ人も多く、生活を彩ってくれるガーデニングを取り上げました。花だけでなく野菜やハーブ、庭造りに関する資料も紹介しました。



★131 本草図譜.48 / 岩崎常正 著. 本草図譜刊行会, 大正 5-10 【309-66】

インターネット公開

江戸時代末に作られた日本最初の本格的彩色植物図譜が、大正時代初期に復刻されたもの。野生種、園芸種、外国産など 2000 品を超える色鮮やかな草木が 92 冊にまとめられ、蔓草部や雑草部、穀部等に分類されている。展示資料は百合の品種が集められた 48 巻で、展示箇所は「おにゆり」。現在は花としてのイメージが強い百合だが、本草図譜では菜部に分類され、別ページには「根を培養して食用となす」「煮て食ふべし」等の記述も見られる。

132. 建築緑化入門：屋上緑化・壁面緑化・室内緑化を極める! (日経 BP ムック) / 日経アーキテクチュア 編. 日経 BP 社, 2009.10 【Y94-J10668】

屋上や壁、そして屋内に緑をデザインする「建築緑化」の入門書。屋上緑化の基本から、実践、応用までのノウハウのほか、その歴史や海外動向、専門家のコラムなどが掲載され、建築緑化全体を概観できる内容になっている。また、話題作の「その後」など、実際の建築プロジェクトが数多く紹介されており、「第 6 章 ディティール秀作 25 選(2001～09 年)」には、関西館のノコギリ屋根も取り上げられている。

133. 原色園芸植物大図鑑 / 北隆館, 1984.5 【RB2-145】

2304 種の園芸植物のカラー図版を一堂に集めた、監修者曰く「図鑑らしい図鑑」。“大”図鑑と銘打たれているだけあって、約 5.5cm もの厚さがある。学名・属名や原産地、生育温度など、学術的な情報を網羅するだけでなく、季節別・用途別の索引も備えており、一般読者への気遣いも忘れていない。色鮮やかで緻密な図版の数々は、眺めているだけで目を楽しませてくれる。

134. フラボノイド代謝工学によるバラの花色改変 / 勝元幸久 [著]. [勝元幸久], [2008] 【UT51-2008-K404】

博士論文。不可能の代名詞と称されてきた「青いバラ」の開発に繋がる研究の成果がまとめられている。

135. 青いバラ：遺伝子組換えがかなえた「不可能」の花 / 田中 良和, 福井祐子. (掲載誌 Biostory = ビオストーリー：生き物文化誌：人と自然の新しい物語 / 『ビオストーリー』編集委員会 編, 25:2016.6 pp.56-63 【Z74-E103】)

こちらにも「青いバラ」の関連書籍。勝元幸久氏と共に研究開発に携わった田中良和氏、福井祐子氏による記事である。「青いバラ」の開発過程が、一般向けの読みやすい文章で紹介されている。

136. 蔬菜の新品種. 第 19 巻(2016 年版) / 伊東正 監修, 園芸植物育種研究所 編. 誠文堂新光社, 2016.7 【RB181-L50】

昭和 34 (1959) 年以来 3 年ごとに刊行されている、**蔬菜類**の新品種を紹介する解説書である。赤い彗星、羅皇 (らおう)、ひとつだね Tiger。これらは全て、スイカの品種名。新品種の斬新なネーミングを眺めるのも楽しい。

137. 原色植物検索図鑑 復刻版 / 矢野佐 著, 石戸忠 画. 北隆館, 2003.7 【RA5-H25】

道端に咲く花の名前がふと気になった時に、便利な図鑑である。第 1 部の「検索図表」では、花、雄しべの数、果実の形、茎と葉の形から、その植物の属する科を検索することができる。第 2 部の「種類の説明」では、インデックス部分に花の拡大図、色、咲く季節、植物の高さが示されており、実物と照らし合わせながらの検索が容易である。

138. 한국의 전통정원 : 조선시대 대표적인 전통정원을 중심으로 = Traditional Korean gardens : representative gardens of the Joseon period 개정[판] / 진혜영, 송정화, 안태현, 이선희, 이해주, 이정희, 권영한, 신현탁 집필. 국립수목원, 2015.12 【KA437-K6】

韓国の国立樹木園が発行した、韓国の伝統庭園の写真集。朝鮮時代の伝統庭園 26 箇所を、「宮殿庭園」「別荘庭園」「住宅庭園」「書院庭園」「寺刹庭園」の 5 つに分類して紹介している。特に、植栽について詳しく解説されており、庭園ごとに植物の種類と配置図、そして一部の植物については、その植物が持つ意味も掲載されている。日本庭園とは雰囲気の異なる、お隣の国の伝統庭園を、美しい写真で楽しむことができる。

第 25 回「人体ワンダーランド～からだをめぐる冒険いまむかし～」

(平成 31 年 2 月 21 日～3 月 19 日、出展数 124 点)

人体の構造や機能、病気の原因は、いつの時代も探求の対象であり続けていました。絶え間なく生み出されたその成果により現代の医療が確立し、今もなお将来に向けて研究が進められています。第 25 回は、そうした人体への関心を示す資料を展示しました。



★139 体操図：文部省正定 / 師範学校 [編]. 浜田県, [明治-] 【特 53-833】

インターネット公開

体操は心身の健康に寄与するものとして、明治時代に学校教育に取り入れられた。

「文部省正定」と付けられた本書は、師範学校で編纂され、小学校の教材として使われたと推測されている。さまざまな体操の方法が図を用いて平易に示されており、初期の体操教育の一端を知ることができる。

140. 美しい人体図鑑：ミクロの目で見える細胞の世界 / コリン・ソルター 総編集, 奈良信雄 日本語版監修, 三村明子 訳. ポプラ社, 2014.11 【SC71-L155】

私たちの体を形づくったり、その中でさまざまな影響を及ぼしたりする細胞・細菌・ウイルスなどの姿は、通常肉眼では見ることができない。本書は、光学顕微鏡や電子顕微鏡を用いて、思いがけないほど複雑で魅力的なそれらの姿をフルカラー写真に収めた図鑑。各写真に添えられた解説やコラムでは、なぜそのような形をしているか、体内でどのように働くのかも記されている。

141. 筋トレのための人体解剖図：しくみと動きをビジュアル解説 / 石井直方, 肥田岳彦 監修. 成美堂出版, 2018.1 【FS13-L235】

スクワットによって鍛えられる筋肉は？答えは、大殿筋、大腿四頭筋、腓腹筋内側頭など…だが、名前を聞いただけでどの筋肉なのかすぐ分かる方はおそらく少数だろう。本書は、主な筋力トレーニングとそのトレーニングによって鍛えられる筋肉を、精密なイラストとともに解説したユニークな一冊である。トレーニングにどのような筋肉が関わるかを一目で理解することができる。

142. 芸術と脳：絵画と文学、時間と空間の脳科学 (阪大リーブル ; 42) / 近藤寿人 編. 大阪大学出版会, 2013.3 【K27-L1】

芸術や脳の研究者が、それぞれの立場から世界認識、芸術、脳のはたらきについて論考を投げかけあった著作。成立した時代を問わず、異なる言語や翻訳された言語であっても、地域や民族を超えて、私たちに感動を与える芸術が成立するのは、それらを受容する脳（心）の反応が人間の脳の基本的なはたらきを反映しているという観点から、芸術の表現と受容に直結する脳（心）のはたらきを掘り下げていく。

143. 絵でみる人体大地図（ピクチャーアトラスシリーズ） / ジュリアノ・フォルナリ, スティーブ・パーカー 著, 秋元恵実 監訳. 同朋舎出版, 1993.10 【Y11-5229】

頭からつま先まで人体の各部分をひとつずつ見開きで取り上げ、その構造や働きを大きく細密なイラストとともに解説している。タイトルどおり、地図を広げて不思議に満ちた人体の世界を探検している気分になれる一冊。

144. 筋肉と技の科学知識：トップアスリートの肉体と技術の秘密にせまる! (ニュートンムック) / ニュートンプレス, 2018.2 【Y94-L42199】

フィギュアスケートの華麗なジャンプや、球技における変幻自在な「魔球」など、アスリートの肉体から生み出される見事な技は驚嘆に値する。それらの技を科学的に解説するばかりでなく、運動能力を高める方法やスポーツと健康・ケガについても説明している。

145. 解体新書 復刻版 / [ヨハン・アダム・クルムス] [著], [杉田玄白] [訳], 西村書店編集部 編. 西村書店東京出版編集部, 2016.4 【SC61-L64】

『解体新書』（1774年）は、日本最初の西洋医学の本格的翻訳書。前野良沢と杉田玄白が中心となって翻訳。原書はドイツ人医師クルムスが著した Anatomische Tabellen（『解剖図譜』）をオランダ語訳した Ontleedkundige Tafelen（杉田玄白『蘭学事始』のなかで『ターヘル・アナトミア』と紹介）である。

146. 絵で読む江戸の病と養生 / 酒井シヅ 著. 講談社, 2003.6 【EG213-H79】

江戸時代の人々がどのように病気とつきあってきたかを豊富な図版を用いて解説した本。さまざまな疫病がはやった江戸時代で、人々がそれからいかに逃れようとしたか、健やかに暮らそうと願ったかが絵から伝わってくる。

第26回「お！べんとうの本」

(令和元年8月22日～10月15日、出展数100点)

外出時に食料を持っていく行動自体は古くから存在していましたが、そこに娯楽の要素が入り込んだ江戸時代以降、現代につながる弁当文化が成立しました。現在では駅弁やコンビニ弁当だけでなく、海外でも”Bento”として人気を呼んでいます。第26回では、そんな弁当について、科学・文化的側面から扱った資料やレシピなどを扱いました。



★147. 決戦食生活工夫集 / 神奈川県食糧営団 編. 産業経済新聞社, 昭和19 【596-Ka43 ウ】

インターネット公開

戦況が悪化し、食糧難が深刻化していた昭和19(1944)年に刊行された。配給物資に加え、野菜の皮、茶がら、魚の骨などこれまでは食用とみなされなかった材料を使い、いかに栄養のある食事を摂るか、についてまとめている。第2編第5章「學童弁当の作り方」では、いわしのでんぶ、混ぜご飯といった弁当向けレシピが紹介されているが、色々な食材を混ぜ込んで子どもにはなるべく栄養価の高いものを食べさせたい、という涙ぐましい努力が垣間見える。

148. 弁当惣菜実売調査盛りつけのヒント：厳選555品収録(日食外食レストラン新聞別冊) / 日本食糧新聞社, 2017.4 【Y94-L37229】

東京、大阪、そして北海道など約2000店舗を取材し、約1500品を購入試食、そこから555品を選定した「メニューヒント集」。一つ一つの商品に対し、「実用性」「経済性」「オシャレ」など6つの項目を5段階評価している。さらに「見どころ」として、料理そして盛りつけ・容器に関して所感が述べられている。

149. 弁当箱：特種製紙コレクション 宴と旅の器 / 荒川浩和 編著. しこうしゃ図書販売, 1990.10 【KB16-E510】

佐野美術館の特別展として公開された、特種製紙株式会社が所蔵する弁当箱コレクションの図録。弁当箱が293点収録されており、古いものは江戸時代まで遡る。材質はつややかな漆塗りから、木、金属、陶器までさまざまである。またその形態も、酒器と重箱、小皿などが一体となった提重(さげじゅう)や、鯛やひょうたんを象った弁当など、幅広いバリエーションがあることが分かる。

150. 明治・大正・昭和駅弁ラベル大図鑑 / 羽島知之 編. 国書刊行会, 2014.7 【DL698-L55】

明治から昭和にかけての駅弁のラベル（掛け紙）を集めた図鑑で、「Ⅰ明治・大正―初期の駅弁ラベル」「Ⅱ様々な画像―デザインの百花繚乱」「Ⅲめぐる世相―ラベルに封じ込まれた近代」というテーマで整理されている。Ⅲでは、第二次世界大戦中の雰囲気の色濃く反映したラベルや、当時の日本の植民地を走る鉄道の駅弁のラベルも紹介されている。駅弁の豆知識を紹介するコラムも掲載。

151. ふるさとおにぎり百選 / 食糧庁 編. 創造書房, 1987.10 【EF27-E117】

昭和 61 (1986) 年度に開催された農林水産祭の特別展「ふるさとおにぎりまつり」の出品レシピから選定された、「おにぎり百選」を紹介。北海道の開拓おにぎり、長野県のすがり（蜂の子）ご飯、三重県のめはりずし、岡山県のままかりずし、鹿児島県の鶏飯、沖縄県のジュシー。眺めているだけで、日本列島を味めぐりしている気分になれる。

152. 主婦の店さいち惣菜弁当全集：「惣菜弁当の殿堂」味付けは親心、盛り付けは生け花の心得 / 日食・外食レストラン新聞編集部, かいエンタープライズ 編. 日食・外食レストラン新聞日本食糧新聞社, 2012.4 【DH468-J551】

「主婦の店さいち」は、仙台市内の旧秋保町の温泉街にある、伝説の食品スーパー。「秋保のおはぎ」で名をはせるこの店は、惣菜弁当の数々でも絶賛され、中食業界の手本としてその商品開発を 500 社以上のスーパーに研修してきた。この本では、担当がレシピ無しで一品を最初から最後まで調理するシステムや、保存料無添加の昔ながらの味付け、活け花のようにどの角度から見てもおいしそうな盛り付けなど、「さいち」の人気の源を解剖している。

153. TAKE OUT お持ち帰りのデザイン：BRANDING & DESIGN FOR TAKEAWAYS & RESTAURANTS / サンドゥー・パブリッシング 編, [石田 亜矢子] [訳]. グラフィック社, 2017.3 【DH475-L919】

料理を包むおしゃれな容器の数々。たとえ食べ物あまり写っていないくても、どうして食欲が湧いてくるのだろうかと思わせられる。本書は世界のデザイナーがカフェやレストランのテイクアウトのために作成したパッケージを掲載しており、容器の中身はサラダ、サンドイッチ、スシとさまざまである。店のイメージを反映したパ

パッケージは個性豊かであるが、どれも食品をおいしそうに見せ、かつ機能的である。容器のデザインが、いかに重要かわかる一冊。

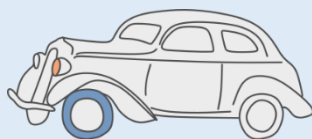
154. おにぎりの文化史：おにぎりはじめて物語：見るだけで楽しめる！ (視点で変わるオモシロさ！) / 横浜市歴史博物館 監修. 河出書房新社, 2019.4 【GD51-M15】

お弁当の定番「おにぎり」の歴史を、文献や絵図、考古資料などから考察した1冊。この本の見どころは、「おにぎり」の起源に迫る、「はじめてのおにぎり」(第3章)である。各地の遺跡から発掘された「炭化米塊」は、一見「おにぎり」に見えても、米でなくもみ(炭化粃塊)であったり、米であっても握られていなかったりする。目の前の真っ黒な塊は「おにぎり」だったのか否か。詳細な観察と分析で、情報が引き出されていく過程が面白い。

第27回「図書館で駆け抜ける！クルマの世界」

(令和2年2月20日～3月17日、出展数82点)

高度経済成長期以降、自動車は日本で急速に普及し、住む場所の選び方やレジャーなど、私たちのライフスタイルに大きな影響を与えました。第27回では、自動車について歴史や産業、将来への展望などといったトピックにより展示しました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響が出始めた頃でもあり、関連講演会は中止となりました。



★155. 自動車発明史(販売員新常識講座) / 日本ゼネラル・モーターズ, 昭和14【特233-746】

インターネット公開

自動車の発達史を自動車販売員に向けて解説した本。世界初の自動車は、フランス陸軍の技師であったキュニョーが明和6(1769)年に発明したといわれている。蒸気力で時速約3.6kmで動いたが、ブレーキがなく、ハンドルも原始的なものだった。世界で最初に自力走行した自動車だが、同時に世界で最初の交通事故を起こしたとも記録されている。その後、ダイムラーとベンツが、明治18(1885)年にドイツにおいて、実用に足るガソリン自動車を初めて開発した。これが現在の乗用自動車の原型である。

**156. SUPERCARS 世紀の名車 100 / 尾澤和幸 訳 , 堀江史朗 日本語版
監修 . 日経ナショナルジオグラフィック社 , 2016.9 【NC23-L338】**

平成 27 (2015) 年にイギリスで出版された図書の日本語版。デザインや性能において優れた「スーパーカー」を最高出力、最高速度、価格などと共に紹介している。

「見ていてほれほれする美しさ」を「スーパーカー」の必須条件として挙げているとおり、魅力的な写真も本書の特徴である。掲載されているのは、昭和 41 (1966) 年から平成 26 (2014) 年までに生産が始まった 100 車種。あなたの思う 1 台も選ばれているだろうか。

**157. 世界のミニカー・コレクション / コレクション・モノ編集部 著 . グ
リーンアロー出版社 , 1998.8 【PS41-G34】**

普及し始めた当初は動力付きのおもちゃとしての性格が強かったミニカー（模型自動車）だが、今日では実在の車種を精巧に模したのも多く、幅広い世代に愛好されている。本書では、世界の名車 14 車種やポリスカー、バスなどのミニカーをコレクター向けに紹介している。ヴィンテージから当時の現行品まで、車種ごとのバリエーションや変遷をカラー写真で通覧できる。

**158. 次世代自動車 2019 / 日経ビジネス , 日経 Automotive 編 . 日経
BP 社 , 2019.3 【YU7-M219】**

次世代自動車において重要なキーワード、「CASE」を主軸に技術や産業動向が述べられている本。「CASE」とは Connected(接続性)、Autonomous(自動運転)、Shared(共有)、Electric(電動化)の頭文字を並べたもので、ダイムラー社の社長(刊行当時)が作り出した造語である。自動車の新しい動きを俯瞰することができる 1 冊。

159. 2050 年自動車はこうなる / 自動車技術会, 2017.5 【DK31-L36】

未来の自動車に関わる「社会・交通システム」と「自動車用動力システム」の現状を分析し、将来の方向性をまとめた本。自動車は単なる移動手段ではなく、経済や環境、都市構造と結びついて発展してきた。自動車の次世代技術はこれらをどのように変化させていくのだろうか。2050 年の自動車と社会、そして私たちの在り方を考えてみよう。

第 28 回「ニッポン茶・チャ・CHA」

(令和 3 年 8 月 19 日～9 月 14 日、出展数 74 点)

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響や、議会開設 130 年記念展示のため、資料展示を行いませんでした。1 年半ぶりに復活した資料展示では、関西館が位置する京都府南部で盛んに栽培される作物であるということと、慌ただしい時勢の中でほっと一息ついて欲しいという思いも込めるといった点から、お茶をテーマとしました。また、関連講演会を初めてオンラインで開催しました。



★160. 売茶翁茶器図 再版 / [木村孔陽 編]. 泉谷末三郎, 大正 13 【15-415】

インターネット公開

売茶翁(ばいさおう) (高遊外(こうゆうがい)) は、江戸時代に腐敗した禅僧社会の覚醒を促すため、煎茶を売りながら仏道や人の生き方を説いた人物である。売茶翁が用いた煎茶道具は、大阪の文人木村兼葭堂(けんかどう)の後嗣である孔陽が文政 6 (1823) 年に編んだと思われる『売茶翁茶器図』にまとめられている。展示資料は、大正 13 (1924) 年に再版したものである。

161. 番茶と日本人 (歴史文化ライブラリー ; 46) / 中村羊一郎 著. 吉川弘文館, 1998.8 【DM235-G16】

お茶を飲むことは、昔から私たち日本人にとってごく一般的な行為だったが、商品としての主役は抹茶と煎茶であった。一方、煎茶の普及以前から、番茶と呼ばれる自家用または狭い市場でしか流通しない規格外のお茶も、庶民の生活と密接に関わってきた。展示資料では、その番茶の製造法や、日常生活における番茶を「食べる」という行為が紹介されており、番茶と日本人の強い結びつきを垣間見ることができる。

162. 緑茶ノ化学的成分ニ就テ / 辻村みちよ [著]. [1932] 【UT51-農 12-16】

女性として日本で初めて農学の博士号を取得した辻村みちよが東京帝国大学に提出した博士論文。英語の主論文では、緑茶からカテキンやタンニンを分離しその構造を解明したことが述べられている。また日本語の副論文には、緑茶に含まれるビタミン C が扱われており、番茶や紅茶に比べて緑茶はビタミン C を多く含むことが指摘されている。

163. 日本茶文化大全 日本茶篇 / ウィリアム・H.ユーカーズ 著, 静岡大学 All About Tea 研究会 編訳, 小二田誠二 監修, 鈴木実佳 監訳. 知泉書館, 2006.3 【DM235-H47】

ウィリアム・H・ユーカーズ著『All About Tea』の日本語抄訳である。日本の茶道、日本における茶の栽培と生産、日本の茶貿易史など、日本茶の部分のみ選出して翻訳されている。原著の内容に加え、原著者の日本訪問や当時の静岡茶事情について訳者などにより追記されており、当時の日本茶事情がよりわかりやすくなっている。

164. 宇治茶：トップブランドの成立と展開 / 宇治市歴史資料館 編. 宇治市歴史資料館, 2015.10 【DM235-L21】

平成 27 (2015) 年 10～11 月に宇治市歴史資料館で開催された特別展の図録。宇治茶ブランドの歩みを、江戸時代から近代、戦後にかけての経済政策や生産技術の進展にも触れながら、史料を使い説明する。

165. 日本茶の近代史：幕末開港から明治後期まで / 粟倉大輔 著. 蒼天社出版, 2017.7 【DM235-L35】

日本におけるお茶の歴史は長いが、幕末開港を経ても茶の産業化と輸出化は飛躍的に進展した。展示資料では、中国から輸入された技術であるお茶の再製工程が目目されている。横浜・神戸での導入経緯と、労働者の労働実態、海運・鉄道の整備、清水港のお茶の輸出港計画など、一次史料を多数使用して当時の状況を描き出している。

166. 堺衆：茶の湯を創った人びと / 堺市博物館 編. 堺市博物館, 1989.9 【KD915-E24】

堺市の市制 100 周年を記念して開催された堺市博物館特別展の解説付き総合図録。堺は、中世において京都、奈良に並ぶほどに、商工業や文化的な面で繁栄を極めていた。現在まで伝わる茶の湯を成立させたという武野紹鷗(たけの じょうおう)や紹鷗に茶の湯を学んだ今井宗久(いまい そうきゅう)ら「堺衆」と称される人々は、稽古と創意工夫によって茶の湯を育てていった。この展覧では、彼らの嗜んだ茶の湯の世界を、茶道具などの「伝世資料」と市内各所から出土する土器類や遺構などの「発掘資料」から多角的立体的に跡づけしようと試みている。

167. 千利休展 / 京都国立博物館 [ほか]編. 表千家, 1990 【KD924-E38】

千利休 400 回忌を迎えて、京都国立博物館で平成 2（1990）年に開催された記念展示会の図版総目録。珠光や武野紹鷗がはじめ、利休が大成したとされる侘茶の世界を伝来の茶道具の名品を通して浮かび上がらせることを主眼とする。同時に、利休の茶風がどう受け継がれたかを、利休七哲（利休の高弟 7 人を指す呼称）、子の道安・少庵、孫の宗旦、三千家（茶道の流派のなかで、利休の直系の表千家、裏千家、武者小路千家の 3 家をよぶ通称名）の初代の好んだ茶道具によって明らかにし、その美の選択と領域の広がりを鑑賞することも意図している。

168. なぜ、伊右衛門は売れたのか。 / 峰如之介 著. すばる舎, 2006.4 【DL698-H62】

平成 16（2004）年 3 月に発売された途端に売り切れが続出し、発売 4 日目で生産が追いつかず出荷停止になり、その後も代表的な緑茶飲料となった伊右衛門の、製品化までの開発チームに迫ったノンフィクション。開発チームは、伊右衛門の直前に別の製品でほとんど売れず大失敗に終わったが、もう一度勝負を決意し、いれたての味の再現や福寿園との提携交渉などのハードルを乗り越えていく。製品開発への苦労や情熱を感じ取ることのできる一冊。

第 29 回「結構毛だらけネコ本だらけ」

（令和 4 年 2 月 17 日～3 月 15 日、出展数 58 点）

犬は第 23 回のテーマでしたが、第 29 回では、猫をテーマとしました。会期中に「2022 年 2 月 22 日」があり、「2（ニャン）」が並ぶことや、近年、飼育頭数は犬を上回り、ステイホームの影響を受けたペットブームによりさらにその数は増えていることなどによるものです。展示では、科学的側面や人間との関係、作品となった猫といった側面から資料を紹介しました。



★169. 百猫画譜 / 仮名垣魯文 編, 立齋広重 画. 和同開珍社, 明 11.3 【209-312】

インターネット公開

仮名垣魯文（かながき ろぶん）の発刊した雑誌『魯文珍報』（ろぶんちんぼう）からネコの特集号を単行本としたもの。挿絵のネコは三代歌川広重によって描かれたもので多様な動きのあるネコを見ることができる。

170. 知りたい!ネコごころ (岩波科学ライブラリー ; 292) / 高木佐保 著. 岩波書店, 2020.2 【RB651-M80】

著者が実施したネコのエピソード記憶、「推理」能力、飼い主をどのように認識しているのかに関する研究のほか、ネコの心の働きや進化に関する幾つかの研究についてまとめた1冊。研究を進める中での、論文には現れない紆余曲折等も書かれており、成果だけでなく、研究手法や背景、過程についても詳しく知ることができる。

171. 猫を科学する / 紺野耕 監修. 養賢堂, 2009.10 【RB651-J200】

ネコ好きの期待に応えるべく、ネコに関する様々な知識をまとめた本。雑誌『畜産の研究』に「猫を科学する」というタイトルで連載された内容を基にしている。「猫」という名前の由来や鳴き声、イエネコの起源、品種、遺伝、行動、体の仕組み、食べ物、病気のほか、人との関係史、文学作品、ペットとしてのネコ、福祉など、当時の学問的進歩からネコと暮らすうえで知っておきたいことまで、あらゆる分野が網羅されている一冊である。

172. 猫が食べると危ない食品・植物・家の中の物図鑑 : 誤食と中毒からあなたの猫を守るために / 服部幸 監修, ねこねっこ 構成. ねこねっこ, 2021.3 【Y78-M2258】

ネコが食べてはいけないものは何か。人間にとって身近な食品・植物・物にひそむ、ネコが口にすると危ないものに焦点を当て、危険度を示しつつ解説が行われている。危険な理由や口にした場合の症状、対策のほか、与え方に注意が必要な食品についてもまとめられている。ネコの食を知る、または、ネコと暮らす上で参考になる一冊である。

173. ネコがマタタビに反応する生物学的意義の解明 : マタタビへの顔の擦り付けは蚊への化学防除を可能にする / 上野山怜子, 西川俊夫, 宮崎雅雄 (掲載誌 化学と生物 / 日本農芸化学会 編, 59(9) 2021.9 pp.435-440 【Z18-26】)

ネコがマタタビを好むことは古くから知られているが、この「マタタビ反応」のメカニズムは令和3(2021)年に明らかにされた。岩手大学・名古屋大学・リバプール大学・京都大学の共同研究により、ネコのマタタビ反応を引き起こす成分として「ネペタラクトール」が同定され、マタタビ反応は蚊を忌避するための本能行動であることが判明した。関西館所蔵資料ではこの資料で研究成果を知ることができる。

174. 大佛次郎と猫 : 500 匹と暮らした文豪 / 大佛次郎記念館 監修. 小学館, 2017.2 【KG669-L80】

ネコ好きの作家といえばこの人、大佛次郎（おさらぎ じろう）。展示資料は大佛のエッセイや写真、蒐集した猫の人形や絵をまとめたもの。大佛は「鞍馬天狗」や「赤穂浪士」といった作品で幅広い層から支持を得た。ネコ愛好家としても知られ、大佛家に住んだネコは 500 匹を超えるといわれる。

175. โดรามอน : เจ้าแมวจอมยุ่ง / สยามสปอร์ตพับลิชชิ่ง, [n. d.] 【Y745-H13】

タイ語の『ドラえもん』。藤子・F・不二雄によるネコ型ロボット創作の舞台裏が「ドラえもん誕生」という話で語られている（展示資料（5 巻）に掲載）。ネコと子ども向け玩具を結び付けることで、今なお人気のキャラクターを生み出した。タイ語版は右開きのため、絵柄が左右反転している。「โดราเอมอน」はタイ語の発音で「ドラえもん」。

176. 世界の猫の民話 / 日本民話の会, 外国民話研究会 編訳. 三弥井書店, 2010.2 【KE222-J3】

日本以外の世界のネコ（ライオン、虎、ピューマを含む）の民話が全七章に分けてまとめられている。ネコの由来にまつわる話（第一章）、人を助けるネコの話（第四章）や悪魔的なネコの話（第五章）などが収録されており、ネコと人との関係性を物語として伺い知ることができる。

177. 招き猫百科 = The graphics of Manekineko / 荒川千尋 文, 日本招き猫倶楽部 編, 板東寛司 写真. インプレス, 2015.9 【GD33-L226】

招き猫の誕生伝説の紹介から、全国の郷土玩具としての招き猫、はたまた招き猫ギターまで、さまざまな招き猫が一堂に会す一冊となっている。



Kansai-kan
of the NDL
20th
Anniversary

会期：令和4年9月22日(木)～10月18日(火)

※日曜・祝日を除く

会場：関西館閲覧室(地下1階)

※関連展示は大会議室(地下1階)

発行：国立国会図書館

編集：国立国会図書館関西館

資料展示班